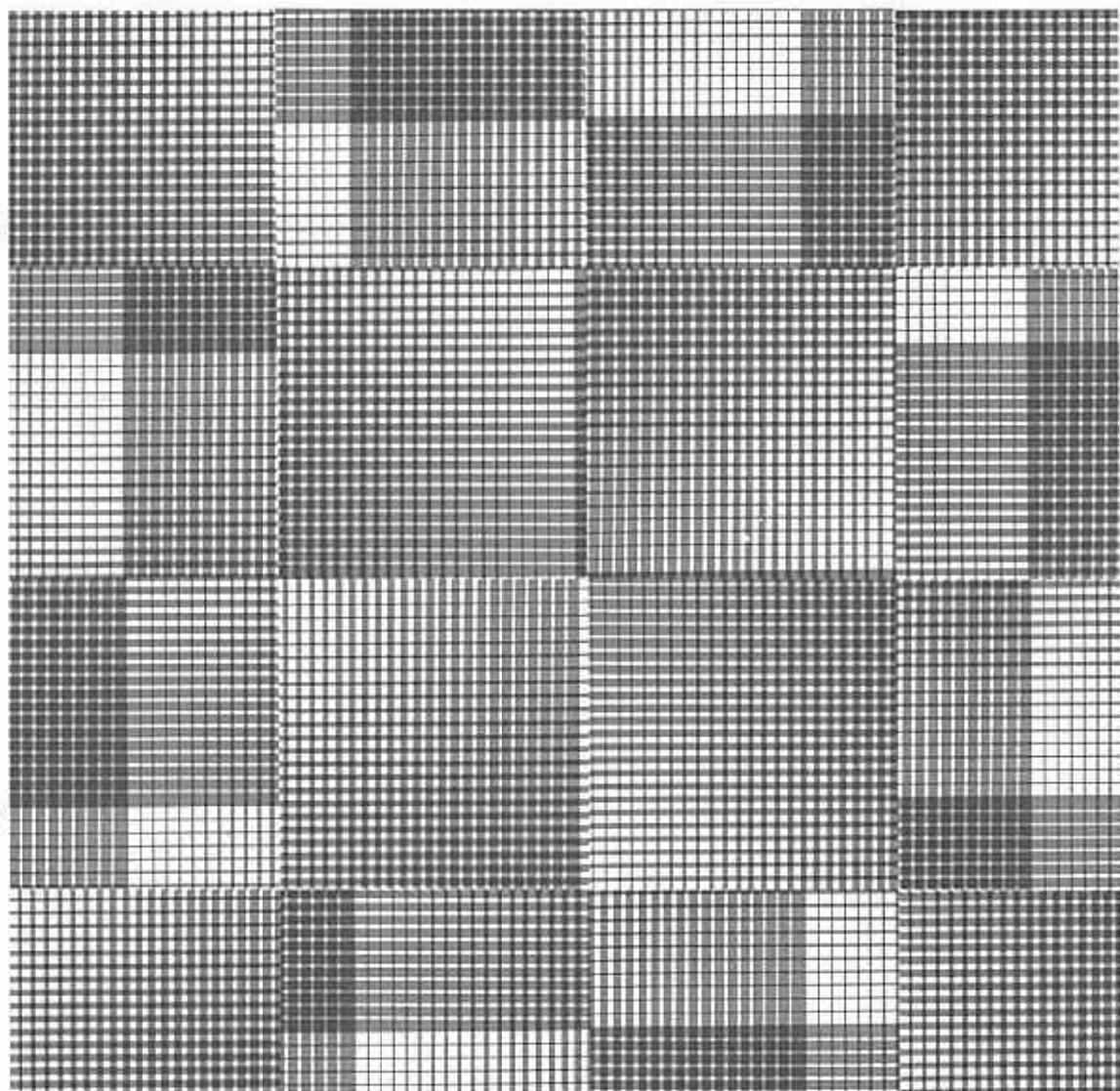
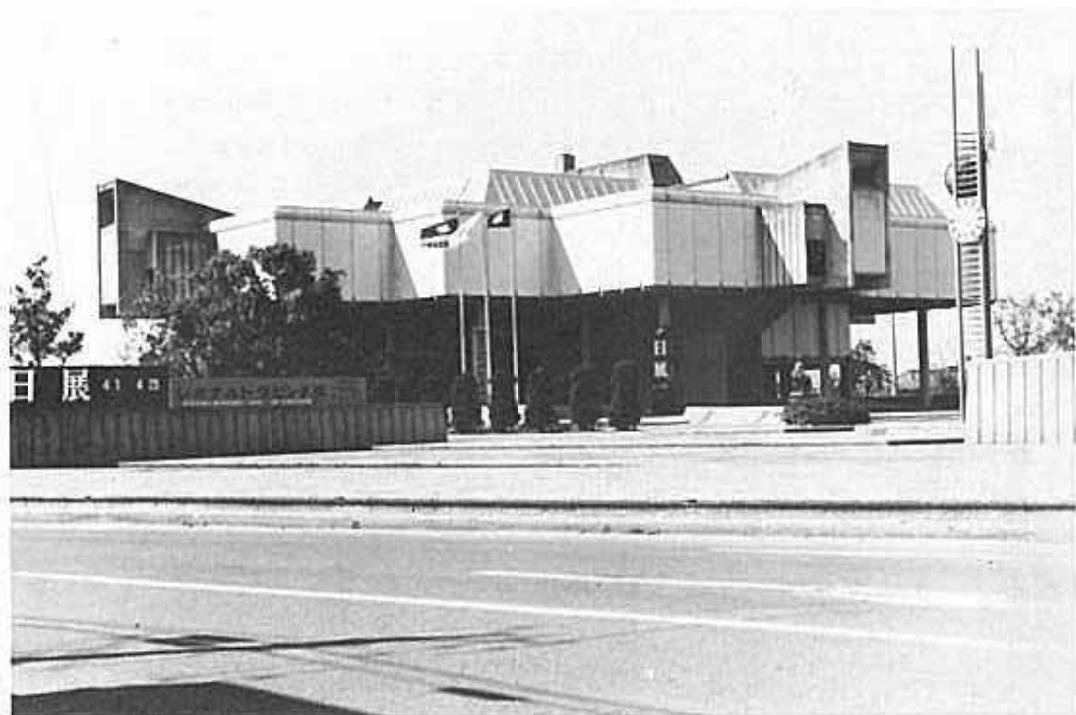


昭和 52 年度

佐賀県立博物館年報



No.8



佐賀県立博物館全景

目 次

はじめに	1
管理の概要	2
1. 本館の沿革	2
2. 博物館日誌	3
3. 規模および施設	7
4. 組織	8
5. 博物館協議会	9
6. 昭和52年度歳出予算	10
事業の概況	11
1. 常設展	11
2. 企画展	14
3. 昭和52年度観覧者数	55
4. 普及活動	56
5. 発掘調査	59
資料の概況	60
1. 昭和51年度末資料の概況	60
2. 昭和52年度購入資料	63
3. 昭和52年度寄贈資料	69
4. 昭和52年度寄託資料	71
5. 昭和52年度購入・寄贈図書	73
茶室の管理と運営の概況	75
1. 茶室の規模および施設	75
2. 茶室の規則、規程	75
3. 茶室の利用状況	77
4. 茶道具備品	77
昭和53年度の事業計画	80
案内図	82

は　じ　め　に

昭和52年度の当博物館の事業概要をとりまとめました。本年度は当館発足第8年目にあたります。年度の重点目標を資料の整備、常設展の充実、特別企画展の開催において努力しましたが、関係各位のご支援とご協力を受け、ある面では予想以上に、ある面では期待したところにはば近い成果を挙げることができましたことを深く感謝いたします。

昭和52年度は常設の「佐賀県の歴史と文化展」の展示には、展示室と展示内容に変化をもたせて実施したほか、「納富進造作展」「池田幸太郎造作展」「鍋島更紗・段通展」「古代のくらしの中の器展」を特別に企画し、広く一般公開展示する外、それぞれの展示会の図録を刊行し頒布することができました。

また外部との連けい企画展では「日本現代工芸美術展」「佐賀美術協会展」「梧竹展」「理科作品展」「佐賀県美術展」「大学総合美術展」「九州グラフィックデザイン展」「勤労者美術展」「佐賀県高等学校美術展」「佐賀県学童美術展」「教職員美術展」「佐賀県高等学校書道展」「二科展」「佐賀大学卒業制作展」等を共催したが、企画にも参画して所期の実績をあげることができました。

しかしこのことで充分なものではなく、今後更に資料を充実整備し、研究調査体制の強化、展示内容の質的向上、量的拡大をはかるとともに、普及広報教育活動を充実し、県民のための博物館として、事業の伸長を計ることにつとめたいと考えております。

なお故市村 清夫人幸恵氏から寄贈を受けた茶室「清恵庵」も、開室5年目を迎え、広く一般に周知されて、利用者、見学者も増え、利用者、見学者にも喜ばれています。県内に数少ない折角の施設ですので、利用、管理と運営に万全を期しました。

ここに昭和52年度の概況を報告いたします。

昭和53年6月1日

佐賀県立博物館長 松崎利彦

管 理 の 概 要

1. 本 館 の 沿 革

- 昭和23年4月1日 佐賀県中央公民館設置条例に基づき、中央公民館設置。
- 昭和26年4月1日 中央公民館設置条例が廃止され、佐賀県文化館設置条例に基づく県文化館が設置される。
- 昭和35年4月1日 佐賀県文化館設置条例を、博物館登録のため改正。博物館法第10条に基づき、佐賀県文化館を博物館として登録する。
- 明治百年記念事業として県立博物館を建設することになり、佐賀大学教育学部跡を敷地に選定、昭和42年度に設計を委託し、建設計画に着手し、昭和43年度から45年度にわたる継続事業として建設することになる。
- 昭和44年1月21日 佐賀県博物館建設整備委員会を設置。
- 昭和44年1月23日 佐賀県立博物館起工式。
- 昭和45年3月31日 佐賀県文化館設置条例廃止。
- 昭和45年4月1日 佐賀県立博物館設置条例公布。
- 佐賀県立博物館協議会条例公布。
- 佐賀県教育庁博物館開設準備事務局設置。
- 昭和45年7月1日 佐賀県立博物館竣工。
- 佐賀県立博物館設置条例施行。
- 博物館開設準備事務局廃止。
- 博物館職員の発令、館長以下18名。
- 佐賀県立博物館協議会条例施行。
- 昭和45年7月16日 佐賀県立博物館協議会委員を任命。
- 昭和45年10月14日 佐賀県立博物館開館記念式挙行。
- 昭和47年3月4日 鉄器減圧含浸装置を研究室に設置。
- 昭和47年12月20日 城内公園の一部（西側駐車場、東側噴水）が佐賀土木事務所から博物館に管理委任される。
- 昭和48年10月10日 茶室「清恵庵」を市村清氏のご遺志により市村幸恵夫人から寄贈を受ける。茶室落成式。
- 昭和50年9月20日 古賀忠雄氏作「岬の男」（ブロンズ）前庭に据付完成。
- 昭和52年12月12日 佐賀藩鋳造鉄製「カノン砲」（復元）玄関前据付完了。

2. 博物館日誌

(昭和52年度)

52年

- 4月1日 人事異動
- 4月6日 前期常設展「佐賀県の歴史と文化展」開場
- 4月11日 第一工房高橋龍一所長、大阪芸術大学長坂本氏夫妻、カルフォルニア美術工芸大学長ハリー・フォード夫妻来館
- 4月16日 「納富進遺作展」開場
- 4月25日 オランダ・アムステルダム大学 ヴァンオルト教授来館
- 5月5日 「子どもの日」のため常設展無料公開
- 5月8日 「納富進遺作展」終了（総観覧者数5,908名）
- 5月20日 大分県教育長矢野朔雄氏、沖縄県教育長仲宗根繁氏来館
- 5月21日 「第16回日本現代工芸美術展」開場
- 5月28日 石川県立郷土資料館吉岡康暢氏来館
- 5月30日 東京国立博物館考古課長三宅敏之氏来館
- 5月31日 名古屋大学助教授樋崎彰一氏、三重大学教授服部貞蔵氏、石川県美術館副館長嶋崎承氏、岐阜県陶磁器陳列館長古川庄作氏、石川県教育委員会平田天秋氏、江崎武氏来館
- 6月2日 文部省高等学校教育課長菱村幸彦氏来館
- 6月5日 「第16回日本現代工芸美術展」終了（総観覧者数5,262名）
京都国立博物館考古室長八賀普氏来館
- 6月16日 「佐賀美術協会展」開場
- 6月21日 「佐賀美術協会展」終了（総観覧者数2,451名）
- 7月4日 日本大学教授吉田隆氏来館
- 7月9日 「池田幸太郎遺作展」開場
- 7月13日 熊本市立博物館山本英夫氏、山田昌之氏来館
- 7月18日 北九州市歴史資料館武末氏来館
- 7月19日 鍋島直泰御夫妻、北風荷子氏来館
- 7月22日 移動博物館打ち合わせ会
- 7月24日 池田草二氏来館
- 7月30日 池田初郎氏来館
- 7月31日 「池田幸太郎遺作展」終了（総観覧者数2,754名）
国学院大学講師麻生優氏来館
- 8月3日 宮崎市婦人国内研修11名来館
- 8月4日 江頭民雄氏夫妻来館

- 8月7日 前期常設展「佐賀県の歴史と文化展」終了（総観覧者数 9,681名）
- 8月8日 梶竹生誕150年記念展の準備と館内工事のため休館（19日まで）
- 8月17日 多摩美術大学客員教授山辺知行氏来館
- 8月19日 鍋島直康氏米館
- 8月20日 「梶竹生誕150年記念展」開場
「梶竹生誕150年記念展」記念講演会
「梶竹の生涯」
講師中林梶竹研究家佐々木盛行氏
- 8月27日 「梶竹生誕150年記念展」記念講演会
「梶竹の書について」
講師前佐賀大学教授土肥春嶽氏
- 8月28日 「第2回佐賀県書作家協会展」開場
- 9月3日 「梶竹生誕150年記念展」記念講演会
「年代に見る梶竹の書について」
講師中林梶竹研究家佐々木盛行氏
- 9月4日 「第2回佐賀県書作家協会展」終了（総観覧者数 3,355名）
- 9月6日 「理科作品展佐賀市支部展」開場
- 9月9日 「理科作品展佐賀市支部展」終了（総観覧者数 1,648名）
- 9月11日 「梶竹生誕150年記念展」終了（総観覧者数 10,091名）
「理科作品展佐賀県展」開場
- 9月12日 中国国際旅行社訪日友好參觀団来館
- 9月14日 「理科作品展佐賀県展」終了（総観覧者数 5,413名）
豪州・クイーンズランド大学助教授ピーター・M・ディヴィッドソン氏来館
- 9月15日 京都国立博物館切畠健氏来館
- 9月16日 多摩美術大学客員教授山辺知行氏来館
- 9月17日 「鍋島更紗・段通展」開場
「鍋島更紗・段通展」記念講演会
「世界と日本の更紗・段通について」
講師多摩美術大学客員教授山辺知行氏
- 9月27日 文化庁、文化財調査官鷲塚泰光氏来館
- 10月1日 第1回博物館協議会
「鍋島更紗・段通展」記念講演会
「鍋島更紗・段通について」
講師日本工芸会理事鈴田照次氏

- 10月 3日 高麗大学校博物館学芸課長尹世英氏、慶應義塾大学教授江坂輝也氏来館
- 10月 9日 東京国立博物館学芸部長北村哲郎氏来館
- 10月10日 広島県立美術館友の会48名来館
- 10月15日 日本赤十字社社長東竜太郎氏来館
- 10月16日 「鍋島更紗・段通展」終了（総観覧者数 6,488名）
- 10月17日 佐賀県美術展準備のため休館（28日まで）
- 10月22日 別府大学教授賀川光夫氏来館
- 10月29日 「佐賀県美術展」開場
- 11月 3日 移動博物館を有田町にて開催（6日まで総観覧者数 2,169名）
- 11月 6日 「佐賀県美術展」終了（総観覧者数 11,826名）
- 11月 9日 「大学総合美術展」開場
- 11月12日 「大学総合美術展」終了（総観覧者数 956名）
- 11月13日 後期常設展「佐賀県の歴史と文化展」開場
- 11月14日 「九州グラフィックデザイン展」開場
- 11月17日 全国知事会事務局調査第二部長早坂剛氏来館
- 11月20日 「九州グラフィックデザイン展」終了（総観覧者数 869名）
- 11月23日 「労働者美術展」開場
- 11月24日 元地域振興整備公団総裁平田敬一郎氏来館
- 11月28日 「労働者美術展」終了（総観覧者数 1,064名）
- 12月 1日 肥前町百田洞穴発掘調査（10日まで）
「佐賀県高等学校美術展」開場
- 12月 6日 「佐賀県高等学校美術展」終了（総観覧者数 694名）
- 12月10日 「佐賀県学童美術展」開場
- 12月15日 「佐賀県学童美術展」終了（総観覧者数 3,527名）
- 12月18日 「教職員美術展」開場
- 12月23日 「教職員美術展」終了（総観覧者数 582名）
- 12月28日 執務納め
- 53年
- 1月 4日 執務始め
- 1月14日 「佐賀県高等学校書道展」開場
- 1月15日 「成人の日」のため常設展無料公開
- 1月20日 「佐賀県高等学校書道展」終了（総観覧者数 1,369名）
- 1月22日 「書初展」開場
- 1月28日 「書初展」終了（総観覧者数 2,094名）

- 1月29日 後期常設展「佐賀県の歴史と文化展」終了（総観覧者数2,379名）
- 1月30日 二科展準備のため休館（6日まで）
- 2月7日 「二科展」開場
- 2月8日 第2回博物館協議会
- 2月18日 京都大学教授広中平祐氏来館
- 2月20日 「古代のくらしのなかの器展」準備のため休館（25日まで）
- 2月24日 九州産業大学教授森貞次郎氏来館
- 2月25日 九州大学教授岡崎敬氏来館
- 2月26日 「古代のくらしのなかの器展」開場
- 3月4日 「古代のくらしのなかの器展」記念講演会
「古代の生活と器」
講師九州産業大学教授森貞次郎氏
- 3月5日 長崎県立美術館立平氏来館
- 3月6日 熊本県文化課25名来館
- 3月9日 奈良国立文化財研究所所長坪井清足氏来館
- 3月10日 「古代のくらしのなかの器展」記念講演会
「古代の生活」
講師奈良国立文化財研究所所長坪井清足氏
- 3月11日 静岡大学教授藤田等氏来館
- 3月13日 北九州歴史資料館小田富士雄氏、武末純一氏来館
- 3月14日 山口県立山口博物館長末富義明氏、村上係長来館
別府大学教授賀川光夫氏来館
- 3月15日 九州大学助教授西谷正氏、韓国中央博物館考古課長姜仁求氏来館
- 3月16日 東京国立博物館龜井正道氏来館
- 3月18日 「佐賀大学卒業制作展」開場
- 3月21日 鹿児島県文化財審議委員河口貞徳氏来館
「佐賀大学卒業制作展」終了（総観覧者数885名）
- 3月26日 「古代のくらしのなかの器展」終了（総観覧者数3,978名）
九州歴史資料館渡辺正氣氏、福岡市歴史資料館三島格氏来館
- 3月31日 「第9回日展」開場式

3. 規模および施設

規 模

(1)本 館	構 造	鉄筋コンクリート造 3階建
	規 模	敷地面積 30,962.0m ² (公園を含む)
		建築面積 2,149.1m ²
		延床面積 4,630.8m ²
(2)茶 室 (清恵庵)	構 造	木造平屋建
	規 模	床 面 積 57.35 m ²

施設概要

ロビー

(案内所、常設展受付) 349.5m²

1号展示室 193.6m²

2号展示室 352.0m²

3号展示室 484.0m²

大展示室 523.5m²

中展示室 136.0m²

収蔵庫並整理室 392.5m²

研究室(ガス・水道付) 66.0m²

館長室、応接室 60.0m²

事務室 80.0m²

資料調査室 64.0m²

撮影暗室 24.0m²

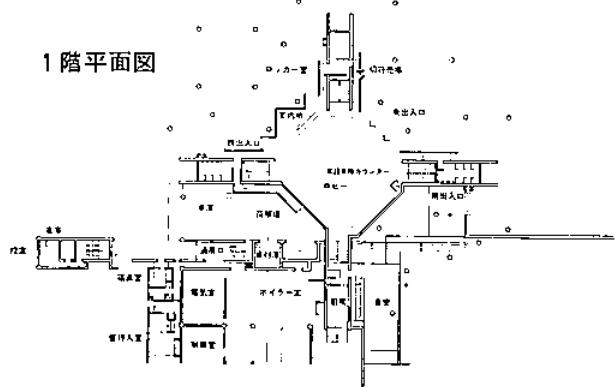
車 庫 56.0m²

荷解場 86.0m²

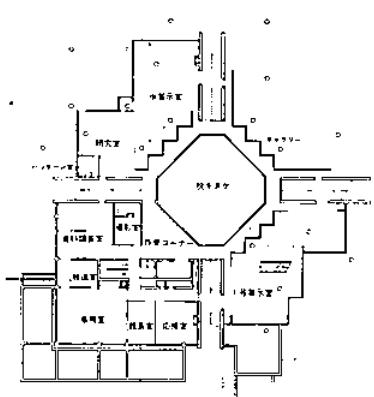
電 気 室 48.0m²

ボイラー室(制御室を含む) 181.0m²

1階平面図

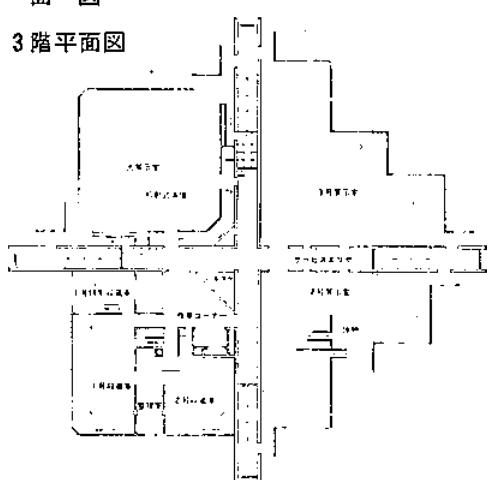


2階平面図

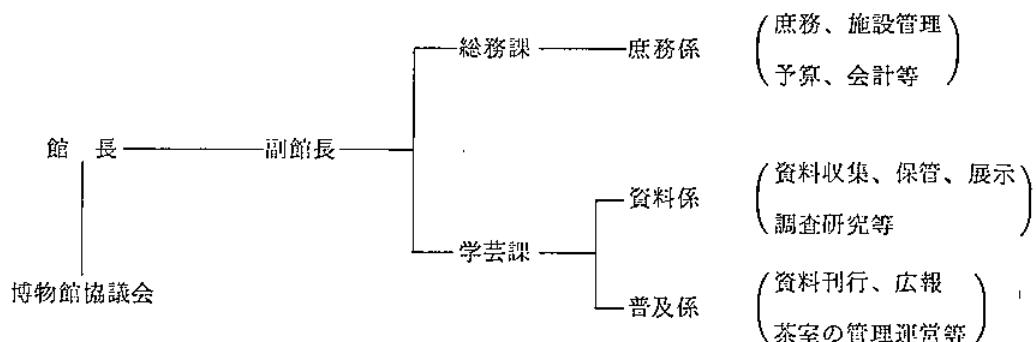


平 面 図

3階平面図



4. 組織



人事異動

職員名簿 (53. 3. 31現在)

昭和52年4月1日付

館 長	松 崎 利 彦	○新 採
副 館 長	小 森 清 次	学芸課資料係学芸員補 吉永陽三
総務課長 (事務取扱)	小 森 清 次	○転 入
庶務係長	酒 見 四 郎	学芸課普及係主事 山田憲生(佐賀工業高等学校より)
主 事	松 永 豊 子	○転 出
"	小 林 静 枝 実	学芸課資料係学芸員補 小杉道久(芙蓉中学校教諭へ)
技師(兼務)	江 口 (本務県体育館)	学芸課普及係主事 徳永 朗(神埼農業高等学校主事へ)
技 術 員	糙 月 勝	
事務員(守兼延)	坂 井 卓	
"	小 石 武 彦	昭和52年8月31日付
技 術 員(運)	竹 下 仁 三	○退 職
学芸課長	手 塚 静 雄	館長 大園 弘(佐賀県信用保証協会理事へ)
資 料 係 長	尾 形 善 郎	昭和52年9月1日付
学芸員補	志 佐 悅 彦	○転 入
学芸員	森 醇 一 朗	館長 松崎利彦(保健環境部次長より)
"	三 輪 英 夫	昭和52年9月30日付
学芸員補	吉 永 陽 三	○退 職
非常勤嘱託	竹 威 雄	非常勤嘱託 久保儀市
"	浜 手 四 郎	昭和53年3月31日付
普及係長 (事務取扱)	野 塚 静 雄	○退 職
主 事	(本務学芸課長) 池 田 栄 意 子	学芸課普及係主事 池田栄意子
"	山 田 憲 生	非常勤嘱託 永竹 威

5. 博物館協議会

委員名簿(定員15名)

(昭和53年3月31日現在)

種別	氏名	現職名	住所
学校教育、 教員、 関係	高添門司	佐賀県公民館連合会長	伊万里市大川町大川野
	掛林貞夫	多久市教育長	武雄市宮野町7班
	渕ノ上友規	有田工業高等学校長	有田町中部赤坂
	東島義雄	富士小学校長	佐賀郡大和町東山田
学識 経験者	星野英夫	祐徳博物館長	鹿島市城内
	内山良男	佐賀大学名誉教授 佐賀県社会科学院会長	佐賀市本庄町5本杉16
	村山宅美	佐賀女子短期大学教授 佐賀県理科教育振興会会長	佐賀市北川副町木原4本柳
	三好不二雄	佐賀大学名誉教授	佐賀市赤松町11-11
	石本秀雄	佐賀大学名誉教授 佐賀美術協会理事長	佐賀市中の小路9-29
	岸田勉	九州芸術工科大学教授	久留米市津福本町931の4
	岡崎敬	九州大学文学部教授	福岡市東区香住ヶ丘3丁目20-15
	米倉利昭	佐賀大学教育学部教授	佐賀市本庄町大字本庄528-1
	平田寛	九州大学文学部教授	福岡県宗像郡宗像町日の里5丁目3-35
	山崎静雄	佐賀県議会議員	武雄市橋町大日8292
	河村健太郎	佐賀新聞社編集局長	佐賀市本庄町三本松

協議会開催状況

第1回(52・10・1)

- 議題
- (1) 昭和51年度事業実績報告
 - (2) 昭和52年度当初予算
 - (3) 昭和52年度事業計画
 - (4) 昭和52年度事業実績(4月~9月)
 - (5) 昭和53年度事業計画案
 - (6) その他

第2回(53・2・8)

- 議題
- (1) 昭和53年度当初予算(案)について
 - (2) 昭和53年度展示事業計画(案)について
 - (3) 昭和52年度事業経過報告について
 - (4) その他

第3回(53・3・22)

- 議題
- (1) 昭和53年度予算について
 - (2) 昭和53年度展示事業計画について
 - (3) 昭和52年度事業経過報告について
 - (4) その他

6. 昭和52年度歳出予算

昭和52年度歳出予算一覧

科 目	予算額(単位千円)
1. 博物館運営費	4,092.7
管理運営費	3,952.2
会議及び研修費	74.7
博物館協議会費	65.8
2. 資料整備費	2,270.3
資料購入費	1,838.5
資料整理費	431.8
3. 研究調査費	1,421
研究費	332
調査費	1,089
次年度特別企画展費	100
歴史資料調査費	114
西松浦洞穴発掘調査費	375
庚申堂塚刊行費	500
4. 特別企画展費	6,958
納富進・池田幸太郎遺作展	500
理科作品展	50
鍋島更紗・段通展	4,108
九州弥生時代の器展費	2,300
5. 常設展費	1,679
6. 普及事業費	668
研究講座費	40
巡回展示費	40
資料刊行費	588
7. 茶室運営費	1,073
計	7,542.9

事 業 の 概 況

1. 常 設 展

佐賀県の歴史と文化展

主 催 佐賀県立博物館

会 期 前期 昭和52年4月6日～昭和52年8月7日

後期 昭和52年11月13日～昭和53年1月29日

会 場 前期 中・回廊・1・2号室展示室

後期 1・2・3号展示室

観覧料 ・個人

大人50円 大・高生30円 中・小生20円

・団体(20名以上)

大人30円 大・高生20円 中・小生10円

出 品 目 錄

1. 前 期 (52・4・6～8・7)

自然史(中展示室)

①岩 石

・佐賀県の岩石…珪石、火山弾、真珠岩、石
灰岩、陶石など13点

・紫水晶(ブラジルミナスゼライス州産)

②植 物

・佐賀県の植物標本…サルノコシカケ、エヒ
メアヤメ、ヒシ類など

・エヒメアヤメの生態模型

・ヤクスギの断面

③鳥 類

カラスの仲間(カササギなど7点)、ワシ・タ
カの仲間(オジロワシなど3点)、フクロウの
仲間3点、ツグミの仲間7点、キジ・ヤマドリ
の仲間2点、マナヅル1点、コサギ1点、クロ
サギ1点、アオサギ1点

民 俗(中展示室)

①織機関係…人力足踏紡績機、木綿機、糸車、 糸巻など

スピカキ、板グワ、ガネテボ、ネジボウ、ウザ、
サシオイ、ベーカゴなど25点

②有明海漁撈用具…素板、押オケ、エンザ、

③娯楽用具…ラジオ1点、立体写真機2点、蓄音
機2点

考 古(1号展示室)二塚山遺跡群発掘資料

カメ棺、土器類、鏡類(内行花文清白鏡、方格規矩鏡など)、管玉、貝製腕輪、ガラス小玉、ガラ

ス管玉、鉄鉢、鉄剣、鉄製素環頭太刀、青銅製鋤先など

歴史（2号展示室）

①幕末維新の資料

佐賀藩製造蒸気車雛型、佐賀藩製造蒸気船雛型（スクリュー、外輪）、精煉方絵図、佐賀藩三重津海軍所絵図など4点（いずれも陣内松齡画）、凌風丸運行絵図、築地石火矢鑄立方絵図（いずれも秀島成忠画）、紅毛使節崎

場領台へ書翰提出する途中行列図、異国船風俗器物見取図など

②先覚者墨跡

小笠原長行、鍋島直正、武富圯南、草場船山、富岡敬明、佐野常民、副島種臣、大木喬任、江藤新平、谷口藍田、今泉蠻守、久米邦武の書

美術工芸資料（2号展示室）

①絵画

・御厨純一（初春の富士など2点）。武藤辰平（花など3点）。松本弘二（男鹿の夏など3点）。北島浅一（パリの踊子など3点）
・三根霞郷（荷車をひく人など3点）

深鉢など

・鍋島藩窯様式（6点）

色鍋島更紗文高台皿、色鍋島芥子団皿など

・海外倣製品

色絵柴垣梅文唐人踊虎団皿、古伊万里中国倣製瓶など5点

③刀剣（3点）

初代忠吉の刀、6代・7代忠吉の刀、國広の刀

④鎧、鞍など（7点）

桐紋紫糸威二枚胴具足、笙蒔絵鞍鎧、軍配采配蒔絵鞍鎧

②陶磁器

・古伊万里様式（9点）
染錦風俗図八角壺、染錦婦人像、染錦御所車風俗図ひげ皿など
・柿右衛門様式（7点）
濁手色絵花蝶八橋文壺、色絵花蝶団輪花形

2. 後期（52・11・13～53・1・29）

自然史（1号展示室）

①岩 石

・佐賀県の岩石…球状閃緑岩、珪石など11点
・化石…シダ、トクサ、シキシマバス、メタセコイア、フナクイムシ、サメ、ブンブクチャガマの仲間など20点
・紫水晶（ブラジルミナスゼライス州産）

・ト、ヒレンジャク、ツグミ、ヤマセミ、オジロワシ、マナヅル、コサギなど45点

③佐賀県の蝶…5ケース

④ “ トンボ類…5ケース

⑤ “ 甲虫類…6ケース

⑥ タイラノザウルス生態模型

⑦ エビメアヤメの生態模型

⑧ ヤクスギの断面

⑨ 有明海の干潟と生物

②鳥 類

・佐賀県の鳥類…カササギ、アカヤマドリ、ハシボソガラス、キジバト、モズ、アオバ

◎佐賀県模型

考 古（2号展示室）

- ①先土器時代…尖頭器、ナウマン象の歯の化石
黒曜石原石など
- ②縄文時代…石器類（県内各地出土、石斧、石錐など）、土器類（白蛇山出土など）
- ③弥生時代…石包丁、炭化米、土器類、鏡類（方格規矩鏡、内行花文鏡など）、青銅器類（銅劍、銅戈など）、貝釧、銅釧、金印（模造品）など
- ④古墳時代…土器類（土師器、須恵器）、武具（短甲、直刀、剣など）、装身具（内行花文鏡、管玉、耳環、ガラス小玉など）、農具（手斧、鉄斧、鎌など）、永池古墳壁画、太田古墳石室模型
- ⑤古代
経塚出土品…多久市多久町山崎経塚、肥前国背振山経塚、杵島郡大町町仏法堤経塚、セセリ谷経塚

歴 史（3号展示室）

- 写經…大般若写經、法華經
- 仏画…1.東妙寺古図 2.釈迦三尊及び毘丘像
3.阿弥陀八大菩薩像 4.善財童子歴参図 5.
楊柳観音像 6.法隆寺金堂壁画、阿弥陀三尊
図（模写） 7.地蔵菩薩図像 8.板絵種子曼
荼羅
- 江戸時代の甲冑、武具
肥前鎧、かぶと…桶側二枚胴具足、烈文二枚胴
具足など6点、火縄銃（肥前唐津臣國友大五郎
好之作など10点）、大筒1点、龍造寺隆信肖像
など2点

絵 画（3号展示室）

- ①百武兼行（マンドリンを持つ少女など3点）
②久米桂一郎（リンゴ拾いなど3点）
③小代為重（チームズ河畔など3点）
④岡田三郎助（花野など3点）
⑤山本芳翠（帆船）
- ⑥藤島武二（裸婦など3点）
⑦高木背水（風景2点）
⑧川村清雄（御所車）
⑨青木繁（夕焼けの海、織月帰舟など14点）

肥前の陶磁器（3号展示室）

- ①古伊万里系…染付吹墨兔図皿、色絵風俗図徳利など6点
- ②柿右衛門系…色絵岩牡丹文小壺、色絵栗鶴図皿など3点
- ③鍋島藩窯系…色鍋島更紗文高台皿、鍋島染付青磁扇文皿など3点
- ④古唐津系…船徳利、絵唐津水指など3点、陶片（内田小山路窯、帆柱窯、庭木窯など）

2. 企画展

(1) 納富進遺作展

主 催 納富進遺作展実行委員会、佐賀県立博物館

後 援 佐賀美術協会、鹿島市、鹿島市文化連盟

会 期 昭和52年4月16日～5月8日

会 場 大展示室

観覧料 無料

展示概況

本県出身の洋画家で日展評議員、一水会委員をつとめた納富進（1911～1976）の没後1周年を記念して、代表的遺作並びに素描等を展観し、広く故人の画業を紹介するとともに、生前の偉業をたたえた。

出品目録

	品 名	サイズ	西 歴	備 考		品 名	サイズ	西 歴	備 考
1	青根風景	F 1 5	1933	二科展	21	牛のいる風景	F 3 0	1958	一水会
2	野方風景	F 4 0	1938頃		22	白天山	F 3 0	"	現代日本美術展
3	青梅街道	F 3 0	1939頃		23	天山	F 3 0	1959	一水会
4	雪景	F 6	1943		24	バスクの通景	F 3 0	"	"
5	私のアトリエ	F 6	1944		25	天主堂の風景	F 4 0	"	"
6	故郷の川	F 5 0	1947	一水会	26	海辺の道	F 5 0	"	日展
7	めがね橋附近	F 3 0	1948	"	27	雪景	F 3 0	1960	現代日本美術展
8	雪景	F 4 0	1949		28	山と海 (多良岳)	F 4 0	"	一水会
9	平戸の天主堂	F 3 0	1951	一水会	29	山峡	F 5 0	"	日展
10	裸婦	F 3 0	1953	"	30	夏山(八天)	F 4 0	1961	一水会
11	故郷の峠	F 4 0	"	"	31	由布岳	F 5 0	"	"
12	山峡早春	F 5 0	1954	"	32	久住山	F 4 0	1962	"
13	雲仙遠望	F 3 0	"	"	33	八幡岳	F 4 0	"	"
14	田園風景	F 4 0	"	現代日本美術展	34	佐世保風景	F 5 0	"	"
15	土器橋附近	F 4 0	1955	一水会	35	八幡岳	F 4 0	"	"
16	めがね橋	F 4 0	"		36	切り通し教会	F 5 0	"	日展
17	雪のめがね橋	F 3 0	"		37	有明海の岬	F 5 0	1963	一水会
18	長崎風景	F 6 0	1956	現代日本美術展	38	諫早の教会	F 3 0	"	
19	佐世保の教会	F 4 0	1957	国際展	39	長崎風景	F 5 0	1964	日展
20	マリア園	F 4 0	1958	一水会	40	平戸風景	F 5 0	"	一水会

	品 名	サイズ	西 歴	備 考		品 名	サイズ	西 歴	備 考
41	嬉野風景	F 5 0	1964	一水会	53	小さな峠	P 6 0	1970	一水会
42	シテ島風景	F 4 0	1966	"	54	貨車の行景	F 8 0	"	日 展
43	トレドのサンマルチンの橋	F 5 0	"	"	55	山峡早春	F 8 0	1971	"
44	サン・ジュルマン・アン・レイのテラスにて	F 5 0	"	日 展	56	ダチウラの咲く伊豆	F 5 0	1972	一水会
45	シテ島風景	F 5 0	1967	一水会	57	早春山村	F 8 0	"	日 展
46	スペイン風景	P 6 0	"	日 展	58	山ふとろの村	F 8 0	1973	"
47	坂道の教会	F 3 0	1968	一水会委員展	59	木曾の宿場町	F 5 0	1974	一水会
48	トレド風景	F 5 0	"	一水会	60	天主堂の村	F 8 0	"	日 展
49	村落(スペイン)	F 5 0	"	日 展	61	甲斐駒の村	F 5 0	1975	一水会
50	故郷の屋根	F 5 0	1969	一水会	62	山村春日	F 8 0	"	日 展
51	合掌集落(五箇山)	F 5 0	"	"	63	山村風景	F 8 0	1976	"
52	龍王峠	F 8 0	"	日 展	64	鳥居のある風景	F 5 0	"	一水会 (絶筆)

他、素描等若干

(2) 第16回現代工芸美術展

主 催 佐賀県教育委員会

佐賀県立博物館

現代工芸美術家協会九州会

佐賀県陶芸協会

日本現代工芸美術展佐賀県実行委員会

会 期 昭和52年5月21日～6月5日

会 場 3号展示室、大展示室

観 覧 料 無料

展 示 概 況

現代日本の新しい工芸美術の方向づけのために、製作活動を続ける代表作家の昭和52年度の作品を展示した。

出 品 目 錄

1 (染) 扇 折 一 ばたん	福本 繁樹	7 (漆) 曆	象	中村 久司
2 (織) 蓼 色	使豆藏明彦	8 (染) 秋	彩	野入 康子
3 (彫鍛) 角体に発生したボリューム	伊藤 萌木	9 (織) エピソード52—B	潮 隆雄	
4 (木) 対 流	土田 信久	10 (染) 異邦人の図形	山下 了是	
5 (木) 潮 紋	竹村 佳男	11 (彫鍛) ふくらみのグラフ	若山 裕昭	
6 (紙) 畵	春日井範之	12 (彫鍛) 刷	新	豊島 康男

13 (鋳) 方体からの脱出	中村喜久雄	47 (硝子) 壁 瑥 璃	岩田 久利
14 (鋳) アルカディア	鈴木 丘	48 (彫鍛) 水 指 、松籟、	三橋 国民
15 (鋳) 白 の 思 界	上森 四郎	49 (鋳) 箱	宮田 宏平
16 (竹) 相 対 す る 展 開	野口藍鳳斎	50 (彫鍛) 迎雅香燈「昇龍和唱」	帖佐 美行
17 (陶) 早 春 譜	加藤 巍	51 (陶) 連作広口花器	吉賀 大眉
18 (陶) よ そ お い	叶 道夫	52 (彫鍛) 鍛金花器「開花」	山下 恒雄
19 (陶) 晨	吉賀 将夫	53 (陶) 叩き青唐津水指 中里太郎右エ門	
20 (磁) 华 炎	高木 松生	54 (陶) 花 韻	浅蔵五十吉
21 (漆) タイムカプセル1977	窪田 恒	55 (鋳) グラフィカル・コンポジション	永井鉄太郎
22 (彫鍛) 抱	相武 常雄	56 (陶) 春 の 海	大塩 正義
23 (鋳) 苍 茫	伊藤 邦介	57 (陶) ラスター彩鳥文方壺	加藤 卓男
24 (漆) 祈 願	国方 善親	58 (陶) 緑 陰	森野 泰明
25 (漆) 円 光	赤堀 郁彦	59 (陶) 「華」 壺	今井 政之
26 (彫鍛) 蘇 生 関 稔		60 (鋳) 流 映	可西 泰三
27 (染) 渉 木母 正一		61 (磁) 白 韵	河合 肇徳
28 (染) な が れ 城 秀男		62 (陶) 「翠巒」 器	藤木 肇
29 (漆) 彩 鳥 伊藤 裕司		63 (陶) 佇立する形態	栗木 達介
30 (染) 77 一「対」 広川 青五		64 (漆) 洗	磯野 清夫
31 (彫鍛) 想 遠藤 兆映		65 (染) 赤い午後の風景	寺石 正作
32 (漆) 花 と 鳥 明石 朴景		66 (漆) 真夏の印象	尾長 保
33 (染) E G Y P T 皆川 泰藏		67 (漆) 残 照	佐藤 幸一
34 (染) 或 る 教 会 山岸 登美		68 (磁) 「葉韻」 花器	浅蔵 与成
35 (鋳) 生命の追求より延命 大角 眞		69 (人形) 遙	川井小由女
36 (漆) 玄々賦 新敷 孝弘		70 (陶) 灰 陶 77 - 3	加藤 清之
37 (漆) 手 児 奈 物 語 武田 武弘		71 (陶) 萌 映	厚東 孝治
38 (漆) 長 い 日 井波 唯志		72 (磁) 白と赤のハーモニー	中島 均
39 (紙) 群 山内 一生		73 (磁) 想	田中 一
40 (鋳) 届 折 す る 時 間 西村 忠		74 (染) 不知火の海より	小川 泰彦
41 (染) め な み 佐野 猛夫		75 (陶) 叩き 壺	中里 重利
42 (漆) 群 積 山崎覚太郎		76 (磁) 墨	県 有
43 (鋳) 黄銅浮彫函館異国情 蓮田脩吾郎		77 (磁) 豊 陽	青木 龍山
44 (漆) 宙 高橋 節郎		78 (染) 海構 その二	鈴田 浩
45 (彫鍛) 苍 影 宇賀神米蔵		79 (磁) 初 冬	前田 泰昭
46 (鋳) い き も の 原 益夫		80 (陶) 粉 引 壺	溝上 秀次

81 (陶) 驚	雨	井上 俊一	93 (陶) お ば ろ 月 夜	城下 久実
82 (陶) 容 線	東島 広義		94 (陶)	接
83 (磁) 森 の 譜	辻 穀彦		95 (陶)	趾
84 (磁) 夕 霧 の 阿 蘇 山	宮尾 正隆		96 (染) 華	有山 長佑
85 (磁) 暖 流	藤井 良明		97 (陶) 残 雪	岩橋 正輝
86 (磁) 流 韶	松尾 重利		98 (染) 豆 の 譜	大畠 久
87 (木) 韶	重松 勝也		99 (染) 阿 蘇	中玉利 要
88 (磁) 韶 稳	高木 茂郎		100 (磁) 楽 心	高津 明美
89 (竹) 第 二 の 洞	白石白雲斎		101 (磁) オ ー ロ ラ (極光)	鳴田 敏生
90 (人形) 伴 天 連 の 譜	北岡 秀雄		102 (磁) 脫 え る	辻 貞男
91 (人形) 薫 り	中村 衍涯			
92 (陶) 長 頸 壺 「年輪」	大田 緑			

(3) 佐賀美術協会展

主 催 佐賀美術協会、佐賀県教育委員会、佐賀県立博物館

会 期 昭和52年 6月 16日～6月 21日

会 場 3号、大展示室

観覧料 無料

展示概況

日本画、洋画、彫刻、工芸の4部内にわたって一般公募を行い、入選作と会員作品を合わせて216点を展覧した。

出 品 目 錄 (受賞作、会員会友作のみ)

日本画		高柳種行賞	少年の牛	宮崎大治郎
美術賞	早春	多久竜太郎	知事賞	不宿屋
佐賀市長賞	石佛	柄崎 一雄	彫刻	藤森 茂次
県議長賞	廃船B	光行 成子	県教委賞	サンドラ
洋画				豊田 昇
納富進賞	夏の夜のおどりA	真島健児郎	知事賞	松本 孝治
奨励賞	はにわA	小野 久馬	美協賞	中原 玲子
県教委賞	赤いバッグ	吉村 武弘	奨励賞	K子
武藤辰平賞	失ってきたもの	田久保 良	工芸	原 康博
奨励賞	多久聖廟	田代 博己	県教育委員会賞	深層
山口亮一賞	25時の女	緒方 俊昭	文化団体連絡協議会賞	古代の夢
奨励賞	美容室A	梶田 祥子	奨励賞	のげし
60回展記念賞	裁縫(II)	塙本猪一郎	美協賞	白釉鉢
			奨励賞	流動

奨励賞	蝶	井元 洋子	奨励賞	粉引壺	大橋 裕
知事賞	遙	杉野 京			
会員・会友作品					
日本画		南吹く	田崎 恵之	碎石場付近	鶴 義男
海苔船	諸田 和彦	亭亭	水落 光博	彫刻	
夕映え	納富 未由	塔	汐待 和子	奏	増富 彰子
並木	岩永 京吉	風景A	太田 啓子	若者	服巻 清之
冬枯れ	小柳為次郎	白い服の小枝子	下村 康二	おさげ	古田 義文
一隅	西岡 一義	有明海	藤崎健次郎	笛と少年	古賀 義治
洋画		むつごろう	富崎長太郎	腕を組む女	山崎 恵一
蓮の池	中原儀四郎	箱の上	久富 邦夫	イブ	武藤 三男
母と子供	深草 廣平	終怨	上滝 泰嗣	新樹	山本 民二
島の分校	筒井 茂雄	無	蒲原 伸子	工芸	
唐津風景	菊池 義泰	フランス人形	杉本 好守	型絵染花	相川 紀子
赤いテーブル	小杉 梢太	薔薇	杉本 弘子	型絵染帯「金鳳樹」	平坂 純
晴日	野中 勝正	内の牧風景	光岡 等一	緑幻(壺)	齊藤 勉
時雨あがる	兵動 健吾	昼飯どき	岡本 留男	白磁方壺	県 有
漁港閑日	蔵染 貞勝	樹下	山口 勝	漂影	草場 正人
浮世絵と兜	吉田 進一	初秋	宮崎 繁樹	白磁切子花瓶	中村 清見
モンマルトルの丘	田中 一利	春光の北アルプス	古川 誠逸	条刻	大宅 恒博
閑冬の仲間たち	土師 一也	宵祭り	古賀 昭雄	刷毛目鉄砂流し文壺	丸田 正美
風景	江口 孝徳	静物	坂田 昭雄	空へ	城 秀男
大雪渓	高柳 博	晚秋	竹下 泰彦	寂	鈴田 浩
朝市	毛藤 忠	阿蘇風景	若林 景光	紅釉壺	小野 珀子
春	江口 明	農家	大久保孝夫	待春	大庭キミ子
裏庭の桜	牟田口貞夫	二十才の丁君	深川 善次	つるし柿	森 栄子
音標No.5	光武 洋	雨期の花達	大寶耕太郎	彫刷毛目魚藻文鉢	佐藤 走波
快樂	成富 鮎子	転生	川本 達也	渦文染付茂器	坂本 義弘
朝市A	古賀 和夫	オフィス街	緒方 保男	数詞	宮尾 正隆
物思う	真子 達夫	子ども	金子 剛	染付鉢	青木 龍山
雪の朝	北島 兵一	宮古島	吉田 昭彦	方花器	辻 貞男
干潟	音成 三男	ある瞑想(B)	小杉 道久	聖連作	辻 穀彦
黄色い海	多久島純子	鏡	杉光 定	絵唐津萬文壺	松本 平
雪の山林	副島 行高	白石平野	下平 武敏	青白磁五方割花瓶	樋渡 陶六

和紙染萬紋花器 麥秋 末廣	江口 勝美 東島 広義 松尾 次郎	焼しめ壺 映 青磁壺	溝上 秀次 田中 隆昭 前田 泰昭	木版刷更紗着物 草花文	鈴田 照次
---------------------	-------------------------	------------------	-------------------------	----------------	-------

(4) 池田幸太郎遺作展

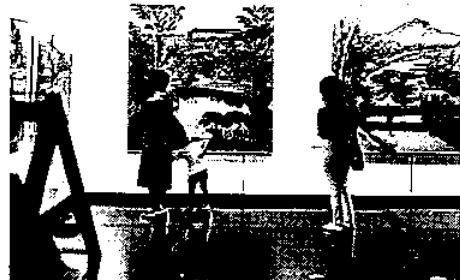
主 催 佐賀県立博物館

会 期 昭和52年7月9日～7月31日

会 場 大展示室

観 覧 料 無料

展 示 概 況



本県出身の日本画家、池田幸太郎（1895—1976）の没後1年を記念して、代表的遺作並びに素描、スケッチ等を展観し、広く故人の画業を紹介するとともに、生前の偉業をたたえた。

出 品 目 錄

No	品 名	制作年	材質	寸 法	No	品 名	制作年	材質	寸 法
1	婦人座像	1919	絹本 着彩	134.0× 65.5	20	富士を望む (箱根)	1956	紙本 着彩	90.7×116.4
2	婦人立像(I)	1920	"	155.5× 57.0	21	箱根風景	1956	"	45.4× 53.0
3	咏子の座像	1921	"	151.5× 85.2	22	裏妙義	1957	"	65.2× 50.0
4	婦人半身像	1923	"	57.4× 35.5	23	裏盤梯	1958頃	"	50.3× 65.4
5	婦人立像(II)	1924	"	134.8× 87.2	24	秋山湖 (高尾山)	1961	"	50.0× 65.2
6	自画像	"	"	53.0× 45.5	25	開かれた山地 (高尾山)	"	"	27.1× 48.0
7	染井釣堀の図	1925	"	102.2×210.0	26	高尾山	1964	"	91.2×151.0
8	山の手風景(I)	1926	"	106.0×154.5	27	浜(外房御宿)	"	"	116.8× 91.2
9	" (II)	"	"	100.4×155.5	28	波濤	1965頃	"	116.7× 91.5
10	朝市(嘉橋 青物市場)	1927	"	102.5×179.4	29	はま (外房御宿)	1965	"	79.2×116.2
11	有楽町ガ下	1929	紙本 着彩	32.8× 48.0	30	浜の聚落 (外房御宿)	1966	"	91.3×116.7
12	三宅坂付近	1930	"	178.5×175.7	31	横浜風景	"	"	63.7× 89.7
13	隅田川	1933	"	188.0×195.5	32	防波の岩礁 (外房御宿)	"	"	95.0×153.0
14	慶應病院屋上	1933頃	"	170.5×197.5	33	浜べ	1966頃	"	37.5× 45.3
15	蝉	1937頃	絹本 着彩	101.0×179.0	34	漁舟	1966	"	91.0×116.7
16	外房御宿 (I)	1940頃	紙本 淡彩	59.2× 68.6	35	海嘯	"	"	96.0×116.7
17	" (II)	"	"	24.5× 48.2	36	浜	1966頃	"	27.8× 35.5
18	佐賀濱端(I)		紙本 着彩	33.6× 45.4	37	海	1966	"	92.0×181.0
19	" (III)		"	27.5× 40.8	38	切り通し(1)		"	37.5× 45.3

No	品 名	制作年	材質	寸 法	No	品 名	制作年	材質	寸 法
39	切り通し(II)		紙本 着彩	37.6×45.2	43	ひまわり	1968	紙本 着彩	45.0×60.9
40	" (III)		"	37.9×45.2	44	懐秋賦	1970	"	181.5×123.3
41	丘のある風景		"	45.2×38.0	45	ゆり		"	37.0×45.3
42	皎夜	1968	"	181.5×123.0					

素描・スケッチ

No	品 名	制作年	材質	寸 法	No	品 名	制作年	材質	寸 法
1	咏子の座像下絵	1921	紙・木炭	155.0×85.4	8	有楽橋	1929	紙・ペン 淡彩	10.7×18.2
2	染井均畠の図下絵	1925	"	106.0×210.0	9	瀧端人を通達	"	"	"
3	山の手風景(I) 下絵	1926	紙・木炭 淡彩	100.0×154.5	10	ツクダの渡し	1932	紙・ペン パステル	14.2×20.5
4	" (II) 下絵	"	"	101.0×156.0	11	隅田川風景	1933	紙淡彩	24.1×34.5
5	弁慶橋付近 (赤坂見附)	1929	"	180.0×235.5	12	明大前駅ル		紙・ペン 淡彩	10.7×17.9
6	四ツ谷 昇近	1928	紙・木炭	163.0×170.0	13	鳥山付近		"	14.2×20.0
7	三宅坂付近 下絵	1930	紙・木炭 淡彩	182.5×172.0					

他、素描、スケッチ数十点展示

(5) 梶竹生誕150年記念展

主 催 佐賀県

佐賀県教育委員会

佐賀県書道教育連盟

佐賀新聞社

佐賀県立博物館

後 援 小城町

三日月町

会 期 昭和52年8月20日～9月11日

会 場 1・2・3号展示室

観 覧 料 大人 大・高生 中・小生

個人 200 100 50

団体 150 80 30

図 錄 「中林梶竹」

出品作品132点及び梶竹落款、碑石拓本、梶竹略傳・年譜等参考資料を掲載、131

頁 頒価 1,500円

「梶竹筆碑石集」

県下の梶竹筆碑石12件について拓影及び銘文についての解説15頁 頒価 200円



講演会 会場・中展示室

第1回 8月20日 講師 佐々木盛行氏（梧竹研究家）

「梧竹の生涯」

第2回 8月27日 講師 土肥禎利氏（前佐賀大学教授）

「梧竹の書について」

第3回 9月3日 講師 佐々木盛行氏

「年代にみる梧竹の書について」

展示概況

郷土の生んだ近代日本の代表的書家中林梧竹の生誕150年を記念して、これまでの未発表の代表的作品を県内外から集め、一般の鑑賞に供するとともに書聖梧竹の生涯をかえりみ、その遺業を讃えた。

展示物は東京をはじめ熊本、福岡、長崎及び県内から多数の出品があり総数書129点（屏風7、額7、巻子2、幅113）、資料遺品類23件40点碑石拓本12件24点その他関係写真多数を紹介した。観覧者は東京をはじめ各地の梧竹爱好者の観覧があり、梧竹ファンの層の厚さを物語っていた。観覧総数10,091人。

出品目録

	品 名	規 格	種 類	年 代	
1	幻中真幻（四字書）	18.5×108.0	扁額	47才	
2	幼女…五絶三行	111.0×60.0	条幅	50代	
3	王掌…一行	137.0×30.5	"	"	
4	田家…五絶二行	130.0×39.0	"	"	
5	溶々…五絶三行	112.0×59.5	"	"	
6	南無…一行	115.5×6.5	"	"	
7	予始…四行書	69.0×21.5	"	55才	
8	楳華…七絶三行	110.0×58.0	"	50代	
9	人得…三行	133.5×56.7	"	56才	
10	陪遊…七絶三行	152.5×61.0	"	50代	
11	前途…五絶三行	179.0×95.0	"	"	
12	衡后…三行	138.0×53.5	"	"	
13	岸転…七絶三行	175.0×63.0	"	"	
14	雨笠…六行（萬寿山雜詠）	179.5×91.0	"	"	
15	風雨…五行書	87.0×71.5	"	"	
16	凌寒…五絶二行	136.5×32.5	"	60代	
17	易日…一行	122.5×40.5	"	"	
18	詩云…一行 } 対幅	"	"	"	

19	一区…七絶三行	147.0 × 54.5	条幅	60 代	
20	風月 (扇面)	15.5 × 50.8 25.7	"	68 才	
21	松高白鶴眠 (五字書)	56.5 × 76.5	"	70 代	
22	維九…古文三行	132.0 × 53.5	"	60 代	
23	維王…古文三行	132.0 × 53.5	"	"	
24	水国…五絶二行	142.5 × 33.5	"	60 代	
25	沿渓…七絶三行	146.5 × 53.0	"	68 才	
26	墨宝 (二字書)	29.5 × 49.0	扁額	65 才	
27	臨書36枚	42.0 × 51.0	帖	63 才	
28	大吉 (二字書)	135.0 × 66.5	条幅	61 才	
29	服鼎中作旅車鼎 (色紙2枚張)	22.0 × 16.0	"	60 代	
30	黃閣…六行	111.0 × 39.5	"	68 才	
31	夜涵…五絶三行	120.0 × 57.5	"	60 代	
32	岳陽樓記	134.5 × 68.0	"	69 才	
33	元楊竹西…八行	173.5 × 89	"	60 代	
34	惟四…古文二行	136.5 × 30.0	"	70 代	
35	年無…古文二行	"	"	"	
36	「萬歳」外張り合わせ屏風 (6曲一隻)	66.0 × 26.5	屏風	"	
37	維王…古文四行	179.5 × 47.5	条幅	73 才	38と対幅
38	子孫…古文一行	179.5 × 47.5	"	"	37と対幅
39	晴竹図	149.5 × 51.0	"	70 代	
40	誰向…五絶三行	134.5 × 58.5	"	"	
41	永寺…四行	137.0 × 48.0	"	50 代	
42	造觀…四行	"	"	"	
43	山光…五絶三行	151.5 × 59.0	"	70 代	
44	娟々…五絶三行	151.5 × 59.0	"	"	
45	樹高…一行	137.0 × 16.5	"	73 才	
46	流左…一行	"	"	"	
47	翠壁…五絶二行	133.0 × 43.5	"	70 代	
48	桂花護月図	153.0 × 54.5	"	"	
49	其爾万歳 (四字書)	177.0 × 48.0	"	"	
50	江雨…七絶三行	142.5 × 42.5	"	"	
51	維九…古文三行	121.5 × 53.0	"	71 才	
52	天地…六行	149.0 × 59.0	"	70 代	

53	旧家…七絶三行	175.0 × 88.5	条幅	73 才
54	鎮國之山（拓摺）	140.5 × 60.0	"	72 才
55	桐竹図	179.0 × 96.5	"	70 代
56	穆作…古文三行	119.5 × 40.5	"	74 才
57	正大高明（四字書）	175.0 × 60.0	"	70 代
58	晴竹自画贊（結夏…十行）	145.5 × 79.0	"	"
59	桐竹自画贊（鳳凰樓題図）	166.5 × 72.5	"	76 才
60	江碧…五絶三行	142.5 × 54.5	"	70 代
61	晴竹図	162.5 × 60.0	"	78 才
62	竹図	157.0 × 41.0	"	79 才
63	漂月竹図	179.5 × 94.0	"	"
64	南無觀世音菩薩	118.0 × 21.5	"	77 才
65	生既…二行	146.5 × 49.5	"	78 才
66	竹図	148.0 × 60.0	"	70 代
67	富士山画贊	28.5 × 29.0 27.5 × 29.0	"	80 才
68	迷悟…五絶五行	175.0 × 93.0	"	"
69	虛空藏尊（四字書）	104.0 × 30.0	"	"
70	手紙（朱）	55.5 × 12.5	"	"
71	天狗…五絶三行	174.0 × 54.0	"	"
72	松竹図	146.0 × 172.0	"	79 才
73	春風…三行	131.0 × 62.0	"	80 才
74	閉窓…二行	132.5 × 51.0	"	"
75	朱緑竹	147.0 × 33.0	"	"
76	南無	123.0 × 34.0	"	"
77	上林…五絶三行	151.0 × 64.0	"	"
78	桐図	148.0 × 60.0	"	"
79	碑拓図并題（七絶）	165.0 × 38.0	"	"
80	鶴飛	143.0 × 48.5	"	81 才
81	慈眼…一行	119.5 × 26.0	"	80 代
82	觀世音菩薩…一行 } 三幅對	"	"	"
83	福聚…一行	"	"	"
84	天酒…（2曲1隻）	134.0 × 67.5	屏風	81 才
85	天寶善祥（四字書） 2曲一隻	134.0 × 68.5	"	"
86	隆々…五絶三行	179.0 × 56.5	条幅	82 才

87	一榻…一行	167.5 × 46.5	条幅	80 代
88	天福多（三字書）（2曲一隻）	57.5 × 87.5	屏風	81 才
89	竹図	137.0 × 67.0	条幅	80 才
90	福（一字書）	141.5 × 95.5	"	81 才
91	簾前…二行	133.0 × 50.0	"	80 才
92	南無觀世音菩薩	130.0 × 12.5	"	83 才
93	雁外…二行	146.5 × 51.5	"	"
94	家内繁昌七福神絵図	137.5 × 41.0	"	80 代
95	紅塵…五絶三行	134.0 × 46.5	"	"
96	鴻（一字書）	105.0 × 57.5	衝立	"
97	師説五一尺（長詩一巻）	40.5 × 646.0	巻子	81 才
98	義暉朗燿（四字書）	42.0 × 148.0	扁額	"
99	物初（二字書）	31.5 × 91.0	"	82 才
100	陪佐賀…五絶五行	177.0 × 94.5	条幅	"
101	朱竹画贊図	132.0 × 33.0	"	83 才
102	榮乱属天（四字）一行	152.5 × 41.0	"	84 才
103	鳳拳…一行	136.5 × 32.5	"	"
104	有科氣（四字）一行	152.5 × 41.0	"	"
105	寿（一字）	129.5 × 63.5	"	85 才
106	閑坐…七絶四行	135.5 × 67.5	"	"
107	白雲…五絶四行	179.0 × 96.0	"	"
108	寒山詩屏風（6曲一タメ）	132.5 × 58.0	屏風	80 代
109	紅噛…二行	172.5 × 74.5	条幅	86 才
110	家連…五絶三行	131.5 × 32.5	"	"
111	掌大…五絶三行	131.5 × 32.5	"	"
112	万丈…五絶三行	131.5 × 32.5	"	"
113	晋唐…五絶三行	131.5 × 32.5	"	"
114	欽紙…五絶三行	131.5 × 32.5	"	"
115	秋夜…五絶三行	131.5 × 32.5	"	"
116	帰来…五絶三行	131.5 × 32.5	"	"
117	日午…五絶三行	131.5 × 32.5	"	"
118	磨来…五絶三行	131.5 × 32.5	"	"
119	月初弦図（手拭）	90.5 × 28.5	"	87 才
120	燈火…二行	135.0 × 34.0	"	"

121	牡丹…二行	128.5 × 33.5	条幅	87 才	
122	掃雲迎月（他手紙 4 通）	32.0 × 114.0	卷手	"	
123	主敬（二字書）	32.5 × 67.5	扁額	"	
124	不識…二行	136.0 × 33.5	条幅	"	
125	鯨吞…二行	133.0 × 34.5	"	"	
126	痛処…一行	133.5 × 32.5	"	"	
127	主人…一行	129.0 × 30.5	"	"	
128	十七帖		屏風		
129	"		"		

(6) 理科作品展

理科作品展、佐賀市支部展

主 催 佐賀県理科教育振興会佐賀市支部

佐賀県立博物館

会 期 昭和52年9月6日～9日

会 場 大展示室

観覧料 無料

展示概況

動・植物、昆虫、岩石鉱物および理科的創作品、研究物等

出品点数 小学校 131点、中学校 50点、計 181点

入選数、小学校 38点、中学校 18点、計 56点

理科作品展、佐賀県展

主 催 佐賀県理科教育振興会

佐賀県立博物館

会 期 昭和52年9月11日～14日

会 場 大展示室、中展示室

観覧料 無料

展示概況 県展も市支部展と同様

出品点数 小学校 180点	中学校 56点	高校 7点	合計 243点
---------------	---------	-------	---------

特選数 小学校 37点	中学校 19点	高校 7点	合計 63点
-------------	---------	-------	--------

佳作数 小学校 106点	中学校 24点		合計 130点
--------------	---------	--	---------

入選数 小学校 37点	中学校 13点		合計 50点
-------------	---------	--	--------



(7) 鍋島更紗・段通展 ~日本の更紗、世界の更紗・段通をたずねて~

主 催 佐賀県立博物館

会 期 昭和52年9月17日～10月16日

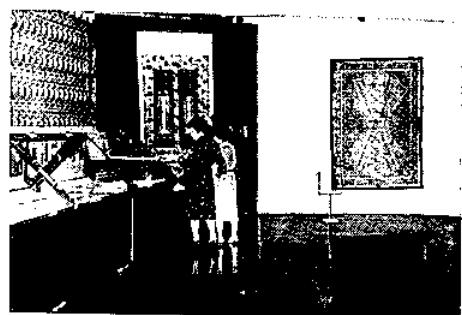
会 場 1・2・3号展示室、大展示室、旧食堂

観 覧 料 大人 大・高生 中・小生

個人 300 150 80

団体 200 100 50
(団体は20名以上)

講 演 会 会場・中展示室



第1回 9月17日

講師 多摩美術大学客員教授 山辺知行氏

演題 「世界と日本の更紗・段通について」

第2回 10月1日

講師 日本工芸会理事 鈴田照次氏

演題 「鍋島更紗・段通について」

図 錄 鍋島更紗・段通展 ~日本の更紗、世界の更紗・段通をたずねて~

155頁 領価 1,500円

展 示 概 況

1.更紗の部 約270点 2.段通の部 約95点を展覧し、鍋島更紗と鍋島段通の歴史と製作技法の特質、美術工芸上の価値を追求した。

出 品 目 錄

No	資 料 名	時 代	規 格	所 �藏 者	備 考
● 鍋島更紗					
1	鍋島更紗幘幕		115.0×948.0	佐賀県立博物館	
2	掛 幅	明治39年	193.0×121.7		一枚の布に染め分け
3	掛 幅		184.5×51.5		一枚の布に染め分け
4	帶	大正	243.0×28.5		
5	敷 物		157.0×217.0		
6	羽 織	大正	丈65.0 衔62.5		
7	胴 着		丈125.0 衔61.0		
8	手 提 袋		24.0×17.5		

9	袋		62.0× 82.0	2点
10	花 台 敷		29.0× 47.5	
11	端 切		163.0× 62.5	綿
12	"		107.0× 29.0	絹
13	"		129.0× 34.0	毛 (モスリン)
14	蒲 団 表 布		148.0× 95.0	絹
15	着 物		丈145.0 衍63.0	
16	鍋 島 更 紗 見 本 帖	江戸後期	471.0× 34.0	佐賀県立博物館 32点
17	"		36.0×671.5	23点
18	端 切 集		39.7× 31.0	台紙20枚
19	袱 紗		35.0× 34.0	

● 参考資料

1	鍋 島 更 紗 秘 伝 書		227.0× 34.0	佐賀県立博物館 文献資料
2	"		193.0× 32.2	"
3	鍋 島 更 紗 染 料			5色
4	更 紗 日 記	天保十年	33.0× 14.0	文献資料
5	薬 師 如 来 像		高 15.0	黒漆塗
6	江 頭 家 系 帖		17.5× 26.5	
7	先祖累代年回忌一覧表		" "	
8	江 頭 佐 八 写 真			
9	鍋 島 更 紗 紋 づくし	復 元	54.0× 39.0	2枚
10	" 木版		20×17×5	
11	" 型紙		30.3×27.5	6枚
	※更紗文様肥前磁器			

12	東南アジア風俗人物図古伊万里壺		高 23.0	神戸市立南蛮美術館
13	色鍋島更紗文様皿	現 代	(径) 47.1× (高さ) 4.0	佐賀県立博物館 12代今泉今右衛門作
14	"	江戸中期	(径) 15.4× (高さ) 3.3	"
15	"	"	(径) 15.2× (高さ) 3.7	"
16	色鍋島鳳凰更紗文瓢瓶	現 代	(高) 24.0	
17	色鍋島草花文花瓶	"	(口径) 10.2 (高) 29.0	
18	" 緑地更紗文八角皿	"	(径) 43.3 (高) 5.5	
19	" 更紗文八角皿	"	(径) 43.0 (高) 5.5	

● 天草更紗

1	掛 布 團		145.5×173.0	
2	掛 布 團 側		183.0×146.0	
3	夜 着		丈148.0 衔64.5	
4	夜 着		140.7× 61.3	
5	端 (緑 地) 切		11.6× 15.0	
6	端 切		323.5× 48.0	
7	端 (茶 地) 切		49.5× 33.6	
8	端 切		68.0×128.0	

● 彦根更紗

1	彦 根 更 紗		27.0× 22.0	東京国立博物館 10点
---	---------	--	------------	-------------

● 和更紗

1	祇園山鉾図更紗		90.0× 91.5	神戸市立南蛮美術館 塚
2	天山送子図更紗		182.0×296.0	" "
3	唐人模様更紗		294.0×156.0	" "
4	更紗屏風		159.8×163.0	

5	胴 着		丈139.0 衍63.0	
6	袋		40.5× 29.0	
7	金 更 紗 帯		404.0× 30.5	
8	更 紗 刀 袋 ①		146.0× 14.5	布製
9	" ②		87.0× 13.0	紙製
10	和 更 紗		143.0×179.5	京都今昔西村 広巾
11	"		171.0×134.0	"
12	"		145.7×162.0	"
13	"		147.5×138.5	"
14	"		144.5×153.7	"
15	"		150.0×177.8	"
16	"		93.0×180.0	" 風呂敷
17	"		93.5× 93.0	"
18	"		188.0×158.5	" 四幅半 あげは紋 つむぎ地
19	"		166.0×130.0	" 四巾
20	"		159.0×127.0	"
21	"		167.0×124.0	"
22	"		164.0×133.0	"
23	"		160.0×129.0	"
24	"		159.0×129.0	"
25	"		175.3×131.5	"
26	"		188.0×137.0	"
27	"		150.0×127.0	"
28	"		165.0×134.0	"

29	和更紗		131.5×147.5	京都今昔西村
30	"		103.3×179.5	" 三巾
31	"		92.5×149.0	"
32	"		93.0×161.0	"
33	"		99.0×141.0	"
34	"		98.5×160.0	"
35	"		102.5×158.5	"
36	"		962.0×36.0	" 反物
37	"		(衍) (丈) 65.0×136.0	" 着物
38	"		(衍) (丈) 63.0×134.0	" "
39	"		(衍) (丈) 65.0×135.0	" "
40	"		(衍) (丈) 66.0×138.6	" "
41	和更紗 着物		(衍) (丈) 63.5×129.0	"
42	"		(衍) (丈) 66.0×143.6	"
43	"		(衍) (丈) 64.0×134.4	"
44	"		(衍) (丈) 61.0×120.0	"
45	"		(衍) (丈) 64.0×129.0	"
46	"		(衍) (丈) 64.5×139.0	"
47	"		(衍) (丈) 63.0×141.0	"
48	"		(衍) (丈) 44.0×92.6	" 子供用
49	"		(衍) (丈) 68.0×178.0	" 夜着
50	"		(衍) (丈) 79.0×184.0	"
51	"		(衍) (丈) 62.0×94.0	" 打掛
52	"		(衍) (丈) 64.0×91.0	" 脊着

53	能 装 東	江戸中期	(袴) 71.5 (丈) 95.5	厚板萌黃地 電甲菊牡丹模様
54	"		(袴) 30.5 (丈) 99.0	側次
55	" 腰 帯		6.7×237.5	赤地菊紋付

● インド更紗

1	赤紫地人物花模様		402.2×125.2	西インドロウ 染サリー
2	花樹文更紗		254.9×181.0	南インド (マスリパタム)
3	"		266.8×179.5	北インド
4	人物文様描更紗		265.5×131.8	南インド
5	人物文様更紗		97.0×190.0	西インド (アーメダバード)
6	鳥獅子文更紗		79.3× 57.7	西インド (アーメダバード)
7	更紗敷物		355.5×264.0	北インド 絹地 (パンジャブ)
8	雲母更紗		116.6×117.5	花鳥文様 パキスタン
9	霜降手花弁文様チンツ	17 C	100× 64.5	東京国立博物館
10	白地花文鬼チンツ	18 C	240.5×139.4	"
11	白地向い鳥立木チンツ	"	200×127.2	"
12	人形手文様チンツ	19 C	243×145.7	" インド
13	立木鳥獸文更紗		258.0×175.8	輸出向け 西インド (ラジャスタン)
14	薄茶地樹文更紗		79.0× 69.0	
15	茜霜降地花文祈祷更紗		138.3× 92.0	
16	インド鬼更紗象掛		410.0×228.0	
17	イ ン ド 更 紗		39.7× 46.0	フォスター出土品
18	白地花文更紗		260.0×123.5	京都今昔西村
19	白地聖樹鳥樹文更紗		210.0×121.5	" マスリパタム
20	白地聖樹文更紗		175.0×328.0	" "

21	茜地小花文刺子更紗		183.0×108.5	京都今昔西村 木版
22	花 文 更 紗		135.0×232.0	"
23	"		129.0×238.0	" 掛布
24	"		136.0×140.0	"
25	"		272.0×106.5	" グジャラード
26	"	19 ~ 20 C	264.0×107.5	" インドネシア向け輸出品プリント
27	緑地格子小花文更紗	19 ~ 20 C	253.0×104.5	" プリント
28	敷孔雀文更紗物		248.5×188.0	" インド西北部
29	下花文更紗着		衍丈 62.5×144.0	" パッチワーク
30	敷花文更紗物		184.0×138.0	" インド西北部
31	花 文 更 紗		254.0×169.0	" "
32	花 文 更 紗		172.0×143.0	" "
33	茜地小花文鬼更紗		192.0×233.0	" "
34	紫地小花文鬼更紗		56.0×136.0	" "
35	茜地小花文鬼更紗		167.0×186.0	" "
36	薄茶地花鳥文更紗		176.5×137.5	"
37	茜地仏足文更紗		131.5×294.0	"
38	茜地樹葉文鬼更紗		242.5× 82.0	" パトラ文様 ラダック(北インド)
39	茜地花文鬼更紗		232.0× 90.2	" "
40	花 文 更 紗		182.0× 96.0	" 木版プリント
41	人魚文更紗	20 C	183.0×125.0	" 人魚紋
42	花 文 更 紗		267.0×108.5	" スマトラ向け輸出品
43	緑地格子小花文更紗		265.0×114.0	" "
44	白地花樹文祈禱更紗	19 C	171.0×100.0	" 輸出向け 白地立木文

45	白地花樹文祈祷用更紗		194.0×122.0	京都今昔西村	輸出向け 白地立木文
46	花 文 更 紗		310.0×100.0	"	輸出向け
47	茜地花樹文祈祷用更紗	19 C	161.0× 90.0	"	立木聖樹文インド ネシアで発見
48	白地人形手手描更紗	18 C	190× 97.0	"	ラーマヤーナの図 インドネシアで発見
49	白地人物鳥獸文更紗		90.0×141.0	"	動物・人物紋
50	縞 更 紗		80.0× 80.0	"	
51	紋 づくし 手更紗		126.0× 34.0	"	
52	イ ン ド 描 更 紗		148.0× 37.5	"	
53	イ ン ド 更 紗		137.0×193.3		金銀彩色人物図壁掛
54	白地水仙文様描更紗		155.5×277.5		
55	赤地立樹文様描更紗		216.6× 99.6		
56	染分縞に小花文様更紗		57.2× 55.7		
57	茜地唐草文様更紗		36.5× 29.3		(裏にVOC印入)
58	草花獅子蛇文金更紗		31.5× 60.5	京都今昔西村	前田家伝来
59	イ ン ド 箱 降 更 紗				兜袋
60	イ ン ド 霜 降 更 紗		37.5× 54.2		鎧袋 2点
61	"		24.0× 48.0	"	"
62	"		48.0× 48.0		鎧袋 1点
63	イ ン ド 更 紗 端 切		56.0× 56.0		

● ジ ャ ワ 更 紗

1	ジ ャ ワ 更 紗 (ジョク ジャカルタ)		242.2× 50.9	
2	" (チ レ ボ ン)		200.5×108.7	
3	" (ブ カ ロ ン ガ ン)		246.0×110.6	
4	" (ス マ ト ラ)		199.3×107.6	

5	ジ ャ ワ 更 紗 (ジョク ジャカルタ)	現 代	229.5×102.8	
6	" (ジョク ジャカルタ)	現 代	216.6×102.0	
7	" (ソロ、スマカルタ)	現 代	241.2×106.1	
8	赤 地 孔 雀 文 印 金 バ テ イ ッ ク	19 C	180.0×106.0	東京国立博物館
9	幾何文印金バティック	"	253.0×106.0	"
10	白地花鳥文バティック	"	204.0×106.0	"
11	ジャワ更紗見本帖	"	245.0×105.0	"
12	ジ ャ ワ 更 紗 (チ レ ボ ン)		195.0×106.0	京都今昔西村 北ジャワ
13	(チ レ " ボ ン)		204.0×108.5	"
14	(チ レ " ボ ン)		238.0×105.0	"
15	(チ レ " ボ ン)		202.0×109.0	" 北ジャワ
16	(チ レ " ボ ン)		207.0×110.5	" 北ジャワ
17	幾 何 文 更 紗		194.0× 85.0	" チャップを使用
18	花 文 更 紗		258.0×115.0	" "
19	茶 地 金 更 紗		265.0×114.0	" "
20	花 菱 文 更 紗		212.0×101.0	" "
21	花 文 更 紗		208.0× 90.5	"
22	"		220.0× 94.0	" チャップを使用
23	紺 地 ト ド ト 更 紗		192.0× 89.5	" "
24	茶 地 絞 り 染 入 更 紗		330.0× 56.5	" ジャワ西部
25	幾 何 学 文 更 紗		220.0×102.0	" チャップと化学染料使用
26	ジ ャ ワ 更 紗		268.0×110.0	" チャンチンを使用
27	紺 地 ア ラ ビ ア 文 字 更 紗		226.0× 94.0	" "

● タイ更紗

1	山鹿素行愛用陣羽織	17 C	丈 99.0	松浦史料博物館 山鹿 素行 (1622~1685)
2	火 焰 文 タイ 更紗	18 C	400.0×197.5	東京国立博物館
3	シ ャ ム 更 紗		407.0×186.5	京都今昔西村
4	"		368.0×114.5	"
5	"		225.0×120.0	"
6	"	18 C	368.0×113.0	"

● ペルシャ更紗

1	白 地 聖 樹 文 様		284.0×150.0	東京国立博物館 イラン
2	花 樹 文 更 紗		195.0×111.5	ペルシャ (イスファハン)
3	花 文 更 紗		130.7× 88.1	"
4	白 地 花 文 祈禱 更 紗		87.0×127.0	京都今昔西村
5	白 地 花 文 更 紗		181.0×247.6	"
6	花 鳥 文 更 紗		183.0×243.0	"
7	白 地 小 花 文 更 紗		91.3×133.0	"
8	白 地 小 花 文 刺子 更 紗		160.5×117.0	"
9	白 地 小 花 文 更 紗		82.0×132.0	"
10	白 地 花 文 更 紗		180.0×123.5	"
11	"		106.5×106.5	"
12	白 地 菱 形 文 更 紗		102.5×102.5	"
13	白 地 円 文 更 紗		105.0 (直径)	"
14	人 物 文 更 紗		302.0×152.5	"

● ヨーロッパ更紗

1	スイスプリント染 ベット掛け		295.8×202.0	スイス
---	-------------------	--	-------------	-----

2	オーベルカンプ更紗A		181.0× 71.5	東京国立博物館 フランス
3	オーベルカンプ更紗B		162.0× 85.2	東京国立博物館 フランス
4	阿蘭陀更紗		35.0× 37.0	オランダ(軸装)
5	ヨーロッパ更紗		212.0×176.0	京都今昔西村
6	"		126.0×120.0	"
7	"		36.0× 98.0	" 銅版
8	"		163× 75.0	"
9	"	19 C 初	78.4× 78.0	" 凸版オーベルカンプ
10	"		216.0× 83.0	" 木版
11	オランダ更紗着物		59.4×152.0	"
12	"		65.0×140.0	"
13	"		64.0×127.0	" 銅版更紗
14	オランダ更紗		76.6× 55.6	"
15	オランダ更紗茶箱外袋		たてよこ高 12.5 18.0 17.3	
16	オランダ更紗着物		幅丈 14.0× 40.0	京都今昔西村 子供用 (表)インド織 (裏)オランダ銅版更紗

● 中国更紗

1	中國更紗		179.0×106.0	京都今昔西村
2	上海更紗		30.5× 23.0	
3	廣東更紗		18.0× 64.0	

● その他の更紗

1	ウラジオ更紗		71.0× 42.0	
2	アフリカロウ型染		119.0× 82.1	北部アフリカ
3	アメリカ銅版プリント		20.4× 19.3	アメリカ
4	"		44.0× 61.5	"

● 更紗参考資料

1	浮世絵		37.5×25.5	京都今昔西村 3枚1組豊国画
2	掛幅		103.8×25.8	" 歌川豊清画
3	古更紗模本	明治	(台紙) 37.5×26.5	東京国立博物館 彦根更紗写し
4	古裂帖 A	18C	(台紙) 24.6×21.5	" 17頁
5	" B	18C	(台紙) 22.6×28.5	" 6頁
6	古渡更紗見本帖	文政年間 以降	(台紙) 33.0×27.5	長崎県立長崎図書館 2冊
7	長崎古版画		45.3×19.7	" 犬を抱く 西洋婦人図
8	"		41.3×30.4	" 会食の図
9	ウラジオ更紗見本帖	明治初期	32.7×21.7	長崎市立博物館
10	ウルシン尺		71.1×1.1	" 更紗をはかるロ シアのものさし
11	「寅阿蘭陀舟本 方品代切本集」	嘉永7	27.0×19.5	"
12	「辰紅毛船本 方脇荷切本帳」	安政3	27.0×19.5	"
13	シーポルト愛用 更紗裏打皮カバン		29.2×55.0	長崎市立博物館 (尾崎士郎、高橋義孝旧蔵)
14	シーポルト従僕 の図(掛幅)		38.3×89.3	"
15	咬噏吧掛幅		35.8×144.5	" 表装に紙更紗を使用
16	長崎古版画		35.0×23.5	" 咬噏吧黒坊、 阿蘭陀人
17	蘭船図掛幅		116.1×18.7	長崎県立美術博物館 表装部 箱更紗
18	唐人・紅毛人図掛幅		121.0×46.4	" 二幅村川原慶賀筆 表装部更紗
19	長崎古版画		30.2×21.0	" 紅毛人カピタン図 並黒坊
20	"		40.5×15.8	" 紅毛人遠見之図
21	"		32.0×22.0	" 阿蘭陀人之図
22	"		41.1×15.7	" オランダ人立姿
23	"		35.0×24.5	" 阿蘭陀人黒坊犬に 戯る

24	チ ャ ッ プ		11.0×16.0×7.0	ジャワ更紗用
25	チ ャ ン チ ン		上 2.5× 13.0 下 3.0× 10.0	ジャワ更紗用
26	ロウ及びロウ溶鍋		直径14.0	"
27	カラムカリベン		最大 27.0×5.0	インド更紗用
28	インド木版		花型 14.0×15.0×6.3 虎型 18.0×13.0×4.0 舟型 11.0× 3.5×4.0	"

● 鍋島段通

1	蟹 牡 丹 文	昭和10年頃	190.0× 93.0	
2	唐 花 牡 丹 文	明治初期	181.0× 90.0	
3	唐 花 草 文	大 正	266.0×363.0	
4	蟹 牡 丹 に 蝶 文	大 正	262.0×282.0	
5	蝶 に 花 連 続 文	大 正	183.0× 95.0	
6	唐 花 に 蝶 文	大 正	187.0× 97.0	
7	波 に 千 烏 文	昭和15、 6年頃	282.0×271.0	
8	蟹 牡 丹 文	明治初期	190.0× 93.0	
9	牡 丹 唐 草 文	江戸末期	185.0× 94.0	
10	蟹 牡 丹 唐 草 文	大 正	182.0× 95.5	
11	唐 草 苺 菓 文	明治初期	190.0× 93.0	
12	蟹 牡 丹 唐 草 文	明治22年	182.0× 95.0	
13	蟹 牡 丹 文	明治初期	182.0× 91.0	
14	"	"	193.0× 94.0	
15	蟹 牡 丹 に 蝶 文	大正末～ 昭和初期	272.5×267.0	
16	蟹 牡 丹 文	明治末期	186.0× 94.0	
17	牡 丹 唐 草 文	明治中期	184.5× 94.0	
18	花 に 雷 文	"	179.5× 97.0	

19	唐 花 に 蝶 文	大 正	356.0×350.0	
20	牡 丹 唐 草 文	大 正	182.0× 94.0	
21	蟹 牡 丹 文	昭和17年頃	362.0×361.0	
22	"	"	181.0× 91.5	
23	蟹 牡 丹 唐 草 文	江戸末～明治初期	191.0× 91.0	
24	蟹 牡 丹 に 雲 形 文	昭和18年	246.0×241.0	
25	牡 丹 雷 文	明治末期	218.0× 95.0	
26	花 菱 龍 唐 草 文	明 治	185.0×182.0	
27	蟹 牡 丹 文	明治初期	192.0× 93.0	
28	唐 草 花 文	江戸末期	183.0× 90.5	
29	蟹 唐 草 文	"	280.0× 94.0	
30	蟹 牡 丹 唐 草 文	大 正	94.0×176.0	
31	唐 草 花 文	江戸末～明治	361.0× 94.0	
32	蟹 牡 丹 文	明治初期	188.5× 94.0	
33	"	昭和12、3年頃	181.5× 91.0	
34	唐 草 花 文	明治初期	196.0× 92.0	
35	牡 丹 唐 草 文	明治末期	184.0× 93.5	
36	唐 草 紗 菓 文	明治初期	365.5× 94.5	
37	花 菱 連 続 幾 何 文	大 正	187.0× 93.5	
38	唐 花 に 蝶 文	"	189.0× 97.0	
39	牡 丹 唐 草 文	明治初期	96.0×185.5	
40	唐 花 牡 丹 文	昭和初期	178.0× 94.0	
41	"	"	177.0× 91.0	
42	牡 丹 雷 文	明治中期	184.0× 94.5	

43	蟹 牡 丹 文	昭和15 6年頃	182.5× 92.5	
44	花 菱 龍 唐 草	明 治	289.0×187.0	
45	蟹 牡 丹 文	昭和12 3年頃	185.0× 93.0	
46	蔓 薔 薇 円 文	昭和5 6年頃	184.0×186.0	
47	蟹 牡 丹 文	江 戸 末	171.0× 93.5	
48	紗 綾 形 地 利 剣 文	明治末期 ～大正	188.5× 93.0	
49	花 菱 唐 草 牡 丹 文	明治初期	183.0× 91.0	
50	唐 花 蝶 文	明治末期	190.0× 97.0	
51	花 幾 何 文	明治末期	190.0× 87.5	
52	蟹 牡 丹 唐 草 文	大 正	184.0× 97.5	
53	唐 花 蝶 文	"	186.0× 96.0	
54	唐 草 荏 菜 文	明治初期	373.0× 93.0	
55	唐 草 花 文	"	189.0× 96.0	
56	唐 草 荏 菜 文	明治初期	189.0× 92.0	
57	蝶 花 文	大 正	170.0× 94.0	
58	紗 綾 形 地 唐 草 菱 文	江 戸 末 期	174.5× 96.5	
59	唐 草 花 文	明治初期	183.0× 94.0	
60	牡 丹 雷 文	明治中期	195.0× 96.0	
61	唐 草 花 文	江 戸 末 期	203.0× 94.0	
62	唐 草 荏 菜 文	"	497.0× 94.0	
63	蟹 牡 丹 文	"	178.0× 94.0	
64	牡 丹 唐 草 文	明治初期	87.5×184.7	
65	蟹 牡 丹 文	昭和初期	178.0× 89.0	

● 参考資料			
1 糸玉(パイル)			
2 図柄資料 21枚			
3 製作機具 5点			
4 製作写真パネル 3枚			
5 段通織機			

● 世界の段通

1 立木花鳥文段通	19 C	203.0×135.0	遠山記念館 イラン
2 十字形花文段通	18 C	206.0×139.0	" "
3 花文段通	18~19 C	221.0×123.0	" イラン
4 鳥獸文段通	17 C	197.0×137.0	" イラン北部
5 獣文段通	18 C	199.0×135.0	" イラン
6 花瓶文段通	19 C	210.0×128.0	" "
7 立木鳥獸文段通	"	217.0×139.5	" インド、イスファハン
8 花文段通	"	193.0×110.0	" コーカサス、カラバク地方
9 祈祷用段通	17~18 C	167.0×117.5	" トルコ、ギョルデス
10 幾何学文段通	19 C	310.0×208.0	" トルケスタン
11 花文綴織段通	18~19 C	187.0×127.0	" イラン
12 メダリヨン段通	19 C	242.0×201.0	" コーカサス
13 人物鳥幾何学文段通	"	227.0×71.0	" スペイン
14 花文段通	18~19 C	190.0×123.0	" 中国
15 動植物幾何学文段通	19 C	167.0×128.0	" エジプト
16 祈祷用段通	"	151.0×81.0	" コーカサス シルバン地方
17 幾何学文段通	"	229.0×128.0	" コーカサス ダゲスタン地方 (セイシュール)

18	鷲文段通	"	252.0×140.0	"	コーカサス カザック地方
19	幾何学文段通	"	168.5×107.5	"	コーカサス ダゲスタン地方 (セイシュール)
20	祈禱用段通	19 C	131.0×105.5		トルコ、ラディック
21	中國段通	昭和初期	181.0×88.0		中国
22	"	"	181.5×91.5		"
23	"		341.0×188.0		"

●(参考資料)

1	バチック製作工程	7枚+1枚		マイケル・ガヴィルスキーハ 遠山記念館(解説) ウンダ・ウォーミング氏 撮影
2	(写真パネル) 中近東絨毯織模型			"

(8) 第27回佐賀県美術展

主 催 佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀県立博物館

会 期 昭和52年10月29日～11月6日

会 場 1・2・3号、大展示室

観覧料 大人 大・高生 中・小生

個人 150 100 50

団体 100 70 30

展示概況

県内在住者を対象に、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真・宣伝美術の七部門にわたり一般公募を行い、入選作に委嘱作品、審査員の作品を加え378点を展覧した。

出 品 目 錄(受賞作、招待、審査員作品のみ)

日本画		佐賀新聞社賞	日曜日	西岡 一義
佐賀市長賞	朝	中村 好美	奨励賞	実る
(無鑑査)	母子	山崎 桢也	招待	窓
県知事賞	むつごろうA	富崎長太郎	招待	習作



洋画		(無鑑査)	若き力	内田 義男
県議会議長賞	赤いテーブルー1 小杉 勉太	文部大臣奨励賞	舞(まい)	高野 明広
NHK賞	母と子(1) 金子 剛	県商工会議所賞	樹木	成清 泰男
唐津市長賞	コンポジション街 そのイメージ 平江 潔	佐賀美術協会賞	夢	神辺千賀子

県展奨励賞	農夫と牛Ⅰ	宮崎大治郎	招待	青いセーターの女	久富 邦夫
NBC賞	ゴトン・ゴトン	中尾 和紀	招待	古城秋麗	筒井 茂雄
佐賀新聞社賞	水田の風景	江口 孝徳	招待	数会のある風景	江口 明
サガテレビ賞	月下舟行Ⅰ	山田 直行	招待	早春天山	菊地 義泰
県造形教育振研究賞 (無鑑査)	石仏PART(1) 山河の見える路上の秋の風景	鳥越 義則 古賀五十男	招待	村落 出を待つ道化師と馬	松林 清次 三塙 清己
読売新聞社賞	白石平野Ⅱ	下平 武敏	招待	古い街	植崎 重視
招待	漁火のみえる砂丘	井手 誠一	招待	漁港	山口 猛彦
招待	息子と娘	深草 廣平	招待	吉祥天 (東大寺三月堂)	田原 嶉
招待	輪埴と壺	吉田 進一	招待	白い砂漠のミラージュ	森 通
招待	秋	深川 善次	招待	「宇宙印もしくは 印宇宙」より	池田 龍雄
招待	久美	杉本 好守	招待	唐津山笠巡行	内山 孝
招待	転生	川本 達也	招待	裸婦	村岡 平蔵
招待	鰐屋	大久保孝夫	審査員	緑のなかの聖堂	石本 秀雄
招待	水田風景	兵動 健吾			

彫 塗				馬	成富 宏
県展奨励賞	BOUQUET (ブーケ)	豊田 升	招待	砂丘	武藤 三男
佐賀新聞社賞 (無鑑査)	ある画学生の像	松本 孝治	招待	三つの正五角形	中島 快彦
佳作賞	NAOKO	藤本 恵三	招待		緒方 敏雄
佳作賞	外界からの圧力	塚本 洋守	審査員	若い人	山本 民二
佐賀県教育委員会賞	首	宮崎 甲			

工芸			武雄市文化会議賞	作品 1977-10	高石 次郎
佐賀新聞社賞 (無鑑査)	青白磁花器	村島 昭文	佐賀県議会議長賞	ハンドパック(水)	長瀬 正子
多久市長賞	白磁深鉢	中村 清見	無鑑査	聖	辻 敏彦
県展奨励賞	線文焼ノ深鉢	井手 勝彦	招待	壺	県 有
佳作賞	鉄彩文平鉢	勝田 文博	招待	染付瓶	草場 正人
佳作賞	布目染付壺	宮崎 祐輔	招待	色錦島吹墨露 草文鉢	今泉 今左衛門
朝日新聞社賞	青白磁壺	宮崎 谷鳳	招待	釉裏金彩水玉紋鉢	小野 琥子
佐賀県教育委員会賞	曙光	前田 泰昭	招待	和紙染丸紋鉢	江口 勝美
日本経済新聞社賞	アザミ	藏染 瑞恵	招待	唐津井戸茶盃	中里 無庵
NHK賞	海遊	鈴田 浩	招待	唐津磁染付花鳥文 水指「早春」	中里太郎 右衛門
佐賀県陶芸協会賞	山薺文鉢	酒井田 正	招待	脈動	城 秀男

招待	瀬手鶴頭文鉢	酒井田柿右衛門	招待	集	田中	一
招待	早春の有明	小川 泰彦	招待	愁韻	青木	龍山
招待	春芽	松尾 重利	招待	流彩	辻	貞男
招待	染影文花器	井上 萬二	招待	圓心	大丸	辰男
招待	青白磁五方割花瓶	樋渡 陶六	審査員	木版摺更紗帯寿穂文	鈴田	照次

書			武雄市長賞	和歌三首	高橋	梓
サガテレビ賞	山頭火の句	角田 隆宣	佳作賞	篆刻	萩原 紀夫	
日本経済新聞社賞	琵琶行	山口 流芳	佐賀県知事賞	曉	池田 太玄	
県展奨励賞	秋のうた	吉岡 文恵	佳作賞	美(うつくしい)	牛草 玄洞	
県展奨励賞	谷如意の詩	野中 正陽	招待	「古」による	平川 朴山	
鳥栖市長賞	寒山之詩	山口 三郎	招待	蕭颯(しょうさつ)	山口 流水	
無日新聞社賞	花	村上 桂秀	招待	無心	野田 紫城	
佐賀新聞社賞	高青邨の詩	山口 信行	招待	高啓詩	土肥 春嶽	
佳作賞	皇甫曾詩	大槻 容子	審査員	こがらし野村望東の歌	山口 泉心	
佐賀県議会議長賞	萬葉の歌	南里 石洲	審査員	人に答ふ	浅野 五牛	

写真			招待	顔のある風景	横尾 尚
佐賀県知事賞	視点(連作)	山口 一郎	招待	破船	中島 実
県文化団体協議会賞	早冷の火高原(連作)	久保 光男	招待	終焉之地	山本 和大
N H K 賞	連作1夜に、 それはわたし	井上 俊正	招待	裸女	真崎 幸夫
佐賀新聞社賞	肥前路一初夏の頃	伊東 重悦	招待	教会への道	最所 嘉
西日本新聞社賞	復活のときへ	清水 棋史	招待	茫々	藤田 正次
読売新聞社賞	蒼いサイコ (無鑑査)	井上 博之	招待	陶芸家	宮崎 宏
伊万里市長賞	大平地晩夏(無鑑査)	鷲崎 哲雄	招待	夜宴(サバト)	古川 公夫
県展奨励賞	動輪	塩谷 直人	招待	静寂の流れ	副島 次郎
県展奨励賞	湖面Ⅱ	西森 秀夫	招待	韓國の造形	大塚 清吾
佳作賞	蒼蒼樹	大坪 晃	審査員	のたりのたり	音成 三男
佳作賞	蜘蛛の巣構	石崎 政秋	審査員		窪田 功男
佳作賞	馬面(連作)	西村 常宣			

グラフィックデザイン			N B C 賞	書籍ポスター I A M A C A T (わが輩は猫である)	石井 智子
佐賀県教育委員会賞	女性を話る4人 (書籍ポスター)	平井三和子	佐賀新聞社賞	イラストレーシ ョン試作(1)	宮原美穂子 島川直美
県貯蓄推進委員会賞	貯蓄推進ポスター	渡島 俊治			

西日本新聞社賞	ポスター（野坂昭如リサイタル）	井上 信宏	招待	スペースコンポジション 小杉 道久
鹿島市長賞	書籍ポスター（ピエロをおっかけろ）	田代 典子	招待	(催物ポスター) ライフィメージとしてのサウスを語る 江口 彰
県商工会議所連合賞	boujyquewho! No 2	横谷 孝史	審査員	構成【接点 I】 宮木 英幸
県展奨励賞	RooTs (ルーツ)	福山 健児	審査員	催物ポスター 勝田 宏
県展奨励賞	ある流れのフォルム	井内 孝	(無鑑査)	ゆうやけ 中村 順子
佳作	コンサートポスター（レッドツュペリン）	岸川 正道	招待	SAVE、ENERGY (省エネルギー) 中村 公久
佳作	イラストレーション（ペンシル）	黒川 久幸	招待	(書籍ポスター) 21世紀の日本 宮原 栄作
入選	この子が、なぜ…	宗 俊朗		

(9) 第21回 佐賀大学美術科総合展

主 催 佐賀大学教育学部、佐賀県立博物館

会 期 昭和52年11月9日～12日

会 場 大展示室

観 覧 料 無料

展示概況

佐賀大学教育学部美術・工芸科在学生の作品（日本画、洋画、彫塑、染織、窯芸、金工、木工、デザイン）110点余を展覧した。

(10) 九州グラフィックデザイン展

主 催 九州文化協会、九州各県、福岡市、北九州市、同教育委員会、佐賀県立博物館

後 援 文化庁、各文化団体、各報道機関

会 場 大展示室

会 期 昭和52年11月14日～11月20日

観 覧 料 無料

図 錄 1,000円

展示概況

九州各県広域文化の向上発展と相互交流のための一環である。現在第一線で活躍するグラフィックデザイナーによる作品と、一般公募入選作品を展示し、グラフィックデザイン界の発展に寄与するものでデザイナーの登龍門となっており、回を重ねるごとに内容も充実してきた。

出 品 点 数

招待出品95点 一般公募61点

(11) 勤労者美術展

主 催 佐賀県

佐賀県立博物館

後 援 佐賀県教育委員会

佐賀市

佐賀県労働者福祉協議会

会 期 昭和52年11月23日～11月28日

会 場 大展示室

観 覧 料 無料

展 示 概 況

勤労生活の中から創作された作品を展示し、勤労者の芸術意欲を高揚し、文化的教養の向上と余暇利用の健全化を図ることを目的とした展覧会であり、きわめて盛況であった。

出 品 点 数

絵画 62点

写真 68点

書 39点

工芸 20点

計 189点

(12) 佐賀県高等学校美術展

主 催 佐賀県高等学校美術連盟

佐賀県造形教育研究会高等学校部会

佐賀県立博物館

後 援 佐賀県教育委員会

会 期 昭和52年12月1日～12月6日

会 場 大展示室

観 覧 料 無料

展 示 概 況

本県高等学校美術教育の振興と美術の発展のため、企画されたもので、絵画・彫塑・デザイン・工芸等高校生徒作品約200点が展示された。

出 品 点 数

参加校 26校

佐賀県高等学校美術連盟賞 1点

佐賀県造形教育研究会賞 1点

特選 8点

奨励賞 36点

入選 123点

(13) 第18回佐賀県学童美術展

主 催 佐賀県造形教育研究会

佐賀県立博物館

後 援 佐賀県教育委員会

会 期 昭和52年12月10日～12月15日

会 場 大展示室

観 覧 料 無料

展示概況

県下の小・中学校の美術振興を目的とし、絵画・クロッキー・デザイン・工作等、特選作約360点を展示了。

(14) 第5回教職員美術展

主 催 財団法人佐賀県教育職員互助会

佐賀県立博物館

後 援 佐賀県教育委員会

会 期 昭和52年12月18日～12月23日

会 場 大展示室

観 覧 料 無料

展示概況

県下の教職員による、絵画・写真・書・工芸・彫塑・宣伝美術の6部門にわたる作品を展示了。

出 品 展 数 合計144点

絵画75点 書15点 写真17点 彫塑2点 工芸32点 宣伝美術3点

(15) 佐賀県高等学校書道展

主 催 佐賀県高等学校書道研究会、佐賀県立博物館

会 期 昭和53年1月14日～20日

会 場 大展示室

観 覧 料 無料

出 品 点 数 147点

特別賞 14点

内訳 特賞 6点（知事、県教委、県議長、佐賀市長、文化団体、博物館）
書連賞 3点
研究会賞 3点
新人賞 2点
特選 28点
秀作 48点

(16) 佐賀県書道教育連盟書初展

主 催 佐賀県書道教育連盟、佐賀県立博物館

会 期 昭和53年1月22日～28日

会 場 大展示室

観覧料 無料

展示概況

子供を中心とした書道展のため親子づれの参観者が多かった。

出 品 点 数 4,138点

特選 198点

秀作 581点

佳作 1,712点

特別賞 60点

(17) 62回二科展佐賀展

主 催 佐賀県教育委員会、佐賀県立博物館、二科会、佐賀新聞社

会 期 昭和52年2月7日～2月19日

会 場 1・2・3号、大展示室、ロビー

観覧料 大人 大・高生 中・小生

個人 500 300 200

団体 400 200 100

展示概況

絵画・彫塑・商業美術・写真の4部門にわたり、巡回作品並びに地元入選者の作品をあわせ、390点余を展示した。

出 品 目 錄（佐賀関係者のみ）

絵画部	まつり	坂本 敏弘
巡礼の旅	会員 大隈 武夫	黒門幻想
蝸牛	会友 松林 清次	雪溪（4）



草花女人	牛島陽二郎	負う (B)	藤田 新
白い塔	汐待 和子	休憩	小森まさ子
風景 (II)	太田 啓子	庭	松永重四郎
水遊び	野口祺和子	霧のセーヌ河	山口 正人
人形 (III)	古賀 京子	アラブの城の庭にて	宮崎 健敏
蓮	納富 栄太	静物	会友推挙
風景	斎藤 角真	海峡の人	馬場 一郎
まどろみ (B)	伊東 芳一	材木置場の見える風景	津江 篤郎
			岸川美智子

商業美術部		からつ	蒲原 紀亜
視覚による音の表現	会員 勝田 宏	視覚による音の表現	小路 久男
ROCK BAND	会友賞 会友	豊作祈願	安田憲一郎
感嘆の声の中で……	会友 小杉 道久	KISS	鳥越 義則
くもが私の名を呼ぶ	奨励賞 多良 淳二	舞	上野 忠司
静思の中で……	佳作賞 江副 省三	五つめのおくりもの	田代 典子
やって来た、サーカス	会友推挙 江口 彰	屁ふり嫁	中村 順子
教育不安	宗 俊朗		

写真部		朝霧	福永 孝義
受難 (二十六聖人像から)	会友推挙 藤田 正次	期待	井上 博之
華麗なる夜の余韻	ヤシカ賞 古川 公夫		

18 古代のくらしのなかの器展

主 催 佐賀県教育委員会

佐賀県立博物館

後 援 文化庁

九州各県教育委員会

九州博物館協議会

佐賀県各市・町・村教育委員会

会 期 昭和53年2月26日～3月26日

会 場 1・2・3号展示場

観 覧 料 大人 大・高生 中・小生

個人 200 100 50

団体 150 50 30



講演会 会場 大展示室

1. 日時 3月4日

演題 古代の生活と器

講師 九州産業大学教授 森貞次郎氏

2. 日時 3月10日

演題 古代の生活

講師 奈良国立文化財研究所所長 坪井清足氏

図録 「古代のくらしのなかの器展」

モノクロ写真約1,000枚、257頁 頒価 1,500円

展示概況

九州全域に点在する、弥生時代から古墳時代までの主要120遺跡から出土した各種土器約1300点を各県別、時代順に集成し展観して、生活の地域相や土器の製作技術、形態の変化、器の機能について紹介した。とくに九州各地の土器を一堂に展観したことについて、多大の反響があった。

出品遺跡名

〔佐賀県〕

- 1 丸山遺跡 佐賀市久保泉町大字川久保
- 2 戦場ヶ谷遺跡 神埼郡東脊振村大字三津
字寺ヶ里
- 3 町南遺跡 三養基郡中原町大字古賀字町南
- 4 桃島山遺跡 杵島郡北方町大字芦原字西平
- 5 晴田宿遺跡 小城郡小城町大字晴田宿
- 6 晴田小遺跡 小城郡小城町晴田小学校校庭内
- 7 牟田辺遺跡 多久市南多久町大字下多久
- 8 姫方遺跡 三養基郡中原町大字簽原
- 9 土生遺跡 小城郡三日月町大字久米字土生
- 10 姫方原遺跡 三養基郡中原町大字姫方原
- 11 戊遺跡 小城郡三日月町大字長神田字戊
- 12 本川原遺跡 烏栖市永吉町大字本川原
- 13 千塔山遺跡 三養基郡基山町大字宮浦字宿
- 14 惣座遺跡 佐賀郡大和町大字久池井字惣座
- 15 成章中遺跡 佐賀市神野町成章中学校
- 16 久蘇遺跡 小城郡小城町大字久蘇
- 17 帯隈山遺跡 佐賀市久保泉町大字川久保

18 伊勢山遺跡 三養基郡基山町大字小倉

- 19 千塔山1号墳 三養基郡基山町大字宮浦字宿
- 20 六本黒木古墳 佐賀市金立町大字大門
- 21 基山町内出土 三養基郡基山町内
- 22 柚比永田2号墳 烏栖市柚比町大字永田
字大平

23 上野古墳 三養基郡基山町大字長野字上野

- 24 男女社古墳群 佐賀郡大和町大字久留間
字横馬場

25 勇猛山古墳群 杵島郡北方町大字芦原

- 26 東十郎古墳群 烏栖市柚比町大字東十郎
- 27 瓢塚古墳 東松浦郡呼子町加部島
- 28 一本松古墳群 小城郡小城町大字畑田
字一本松

〔長崎県〕

- 1 原山遺跡 南高来郡北有馬町原山
- 2 松原遺跡 北松浦郡宇久町平
- 3 妙法塚遺跡 南高来郡有明町

4 原の辻遺跡 長崎県壱岐郡芦辺町原の辻

〔福岡県〕

- 1 藤崎遺跡 福岡市西区西新町藤崎
- 2 北牟田跡 小郡市大字三沢
- 3 古北遺跡 久留米市善導寺町古北
- 4 門田35号袋状堅穴 春日市大字上白水字門田
- 5 木塚遺跡 久留米市善導寺町木塚字本村内畠
- 6 亀ノ甲遺跡 八女市室岡亀ノ甲
- 7 弥永遺跡 春日市弥永
- 8 板付遺跡 福岡市博多区板付2-5丁目
- 9 諸岡遺跡 福岡市博多区諸岡
- 10 横限山遺跡 小郡市横限山
- 11 高取遺跡 福岡市西区西新町藤崎高取
- 12 栗田遺跡 朝倉郡三輪町大字栗田
- 13 小郡遺跡 小郡市小郡
- 14 スダレ遺跡 嘉穂郡穂波町
- 15 市の上北屋敷遺跡 久留米市合川町市の上字
北屋敷
- 16 二本木遺跡 久留米市御井町二本木
- 17 三沢遺跡 小郡市三沢
- 18 野方中原遺跡 福岡市西区大字野方中原
- 19 今宿遺跡 福岡市西区今宿
- 20 古宮遺跡 久留米市合川町古宮
- 21 高三浦遺跡 三浦郡三浦町高三浦
- 22 湯納遺跡 福岡市西区大字拾六町字湯納
- 23 石丸遺跡 久留米市東柳原町石丸
- 24 西新町遺跡 福岡市西区西新
- 25 立花貝塚遺跡 柏原郡新宮町
- 26 裹の田遺跡 筑紫郡大宰府町大字水域裏ノ田
- 27 室岡遺跡 八女市室岡
- 28 有田遺跡 福岡市西区有田
- 29 柏田遺跡 春日市大字上白水字柏田
- 30 峠山古墳 筑紫野市針摺

31 竹ヶ本遺跡 春日市小倉竹ヶ本

- 32 炭焼遺跡 筑紫郡那珂川町大字仲字炭焼
- 33 門田遺跡 春日市大字上白水字門田
- 34 柏原古墳 福岡市南区柏原
- 35 御塚古墳 久留米市大善寺町一本松
- 36 名木野7号古墳 山門郡瀬高町小田字名木野
- 37 高崎2号墳 福岡市西区拾六町高崎
- 38 名木野12号墳 山門郡瀬高町小田字名木野
- 39 中隈山古墳 久留米市国分町中隈山
- 40 権現塚古墳 久留米市大善寺町一本松
- 41 天觀寺山窓跡 北九州市小倉南区大字朽網字
宇土
- 42 広石古墳群 福岡市西区拾六町広石
- 43 釘崎3号 八女市大字豊福字久保
- 44 門田2号墳 春日市大字上白水字門田
- 45 八隈3号墳 筑紫野市大字武藏
- 46 八隈4号墳 筑紫野市大字武藏
- 47 大善寺町出土 久留米市大善寺町

〔熊本県〕

- 1 沈目立山遺跡 下益城郡城南町大字沈目立山
- 2 大道遺跡 山鹿市方保田字本村
- 3 戸坂遺跡 熊本市戸坂
- 4 小野崎遺跡 鹿本郡七城町小野崎
- 5 免田式土器出土地 球磨郡免田町
- 6 西久保遺跡 鹿本郡鹿本町御宇田
- 7 山尻遺跡 熊本市山尻
- 8 方保田白石遺跡 山鹿市方保田白石
- 9 塚原古墳群 下益城郡城南町塚原
- 10 卌慶ケ穴古墳 山鹿市熊入町
- 11 付城横穴群 山鹿市城字小原
- 12 城横穴古墳 山鹿市城
- 13 金屋塚 山鹿市石字金屋塚
- 14 台付舟形土器出土地 下益城郡城南町宮地

15 八代大塚 八代市上片町下野森

〔大分県〕

- 1 台の原遺跡 宇佐市四日市
- 2 雄城台遺跡 大分市玉沢
- 3 浜遺跡 大分市大在
- 4 二本木遺跡 大野郡大野町大原
- 5 安国寺遺跡 東国東郡国東町安国寺字前田
- 6 おごもり遺跡 玖珠郡玖珠町大隈
- 7 北友田横穴群 日田市友田字上原
- 8 法恩寺3号墳 日田市刃連町法恩寺

5 石神遺跡 宮崎市山崎町石神

6 元村遺跡 宮崎市元村

7 西片瀬原遺跡 宮崎郡佐土原町下那珂

8 赤江遺跡 宮崎市赤江字田吉

9 大萩遺跡 西諸県郡野尻町三ヶ野山

10 下那珂遺跡 宮崎郡佐土原町下那珂

11 小木原地下式横穴 えびの市飯野町上江
字小木原

12 陣の内遺跡 児湯郡木城町陣の内

13 六野原古墳群 東諸県郡富町六野原

14 蓮ヶ池古墳群 宮崎市芳土蓮ヶ池

〔宮崎県〕

- 1 檀遺跡 宮崎市吉村町檀
- 2 紙屋遺跡 西諸県郡野尻町紙屋市添野原
- 3 下北方遺跡 宮崎市下北方町水源地
- 4 中溝遺跡 宮崎郡佐土原町下那珂

〔鹿児島県〕

- 1 高橋遺跡 日置郡金峰町高橋
- 2 入来遺跡 日置郡吹上町入来西園
- 3 山の口遺跡 肝属郡大根占町山の口
- 4 辻堂原遺跡 日置郡吹上町下田尻字辻堂原

〔19〕 佐賀大学卒業制作展

主 催 佐賀大学教育学部、佐賀県立博物館

会 期 昭和53年3月18日～3月21日

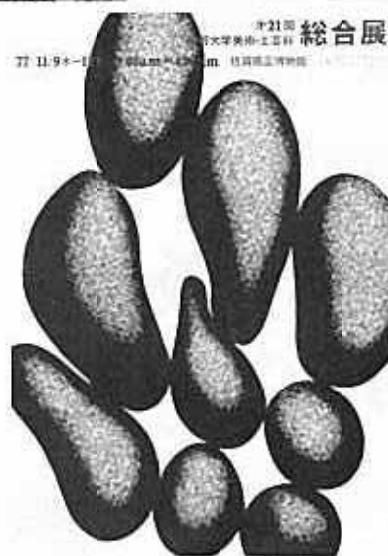
会 場 大展示室

観 覧 料 無料

展 示 概 况

佐賀大学美術・工芸科の昭和53年度卒業生の作品（日本画・洋画・デザイン・窯芸・染織・木工・金工）78点を展覧した。

昭和52年度企画展ポスター





62ND NIKA EXHIBITION

二科展

会期 2月7日(火)～2月19日(日)
会場 佐賀県立博物館

绘画 形刻 写真 商業美術

大人¥500
中大¥300
小中¥200



5th 教職員美術展

絵画 工芸 摄影 書 写真 宣伝美術

時：12月18日㈯～23日㈰
於：佐賀県立博物館

主 催：佐賀県教育職員互助会・佐賀県立博物館
後 援：佐賀県教育委員会

1. 昭和52年度観覧者総数

A. 常設展

	個 人	個 人	個 体	個 体	観覧料 免除	招待者	合 計	測定日数	一日平均	期 間	備考
	大人 大・高 中・小	大人 大・高 中・小	大人 大・高 中・小	大人 大・高 中・小	招待者	招待者	合 計				
佐賀県の歴史と文化展(前期)	2,869	467	1,409	239	353	495	285	315	2,879	210	160
" (後期)	920	147	560	211	36	0	132	104	179	28	62
計	3,789	614	1,969	450	369	495	417	419	3,058	238	222
										163	74

B. 企画展

	個 人	個 人	個 体	個 体	観覧料 免除	招待者	合 計	測定日数	一日平均	期 間	備考
	大人 大・高 中・小	大人 大・高 中・小	大人 大・高 中・小	大人 大・高 中・小	招待者	招待者	合 計				
納 管 通 作 展	3,206	1,122	1,560					5,908	23	257	4/16~5/8
第16回日本現代工艺美術展	2,781	1,077	1,404					5,262	16	329	5/21~6/5
佐 賀 美 術 協 会 展	1,293	767	391					2,451	6	403	6/16~6/21
池 田 市 太 郎 退 作 展	1,638	449	667					2,754	23	120	7/9~7/31
七 夕 展	1,929	323	1,427					3,679	7	525	8/20~8/26
朽 竹 展	6,466	1,134	1,558					10,091	23	436	8/20~9/11
第 2 回 佐賀県音楽協会展	2,401	549	405					3,355	8	419	8/28~9/4
第22回佐賀市児童生徒理科作品展	342	7	1,299					1,648	4	412	9/6~9/9
第27回佐賀県	1,285	285	3,842					5,413	4	1,353	9/11~9/14
鍋 岛 更 紗 段 通 展	3,369	226	330	213	1,024	224		6,488	30	216	9/17~10/16
第 27 回 佐賀県美術総合展	4,884	1,970	1,550	646	2,142	750		11,826	9	1,314	10/29~11/6
第27回佐賀県大学美術科総合展	412	425	118					956	4	239	11/9~11/12
九州グラフィックデザイン展	404	400	65					859	7	124	11/14~11/20
勤 労 者 美 術 展	799	126	139					1,054	6	177	11/23~11/28
第27回佐賀県高等学校美術展	272	290	132					694	6	115	12/1~12/6
第18回佐賀県学童美術展	1,326	88	2,113					3,527	6	587	12/10~12/15
第 5 回 教職員美術展	401	82	96					582	6	97	12/18~12/23
佐 賀 県 高 等 学 校 美 術 展	364	852	153					1,369	7	195	1/14~1/20
音 初 展	1,007	56	1,031					2,094	7	299	1/22~1/28
二 科 展	5,182	799	910	6,285	3,832	6,428		23,897	13	1,992	2/7~2/19
古代のくらしのなかの器展(九州の弥生・古墳時代)	1,550	421	585	14	97	337		833	141	3,978	2/26~3/26
佐 賀 大 学 農 業 制 作 展	378	327	180					885	4	221	3/18~3/21
A + B 合 計	41,689	10,877	19,978	7,158	7,055	7,739		6,029	225	100,790	248
東光会佐賀支部緑光会展	372	101	205					6,267	447	112,850	411
										678	4
										169	4/1~4/4

4 普及活動

(1) 資料の刊行

・博物館報

館報は従来8頁、年6回全48頁発行していたが52年度は内容の都合で発行回数を4回全48頁とした。配布先は県内教育機関、社会教育団体及び主な博物館等で、館の利用促進に活用している。

印刷部数 1回 1,000部

形態 №36号（池田幸太郎遺作展特集） B5版 アート紙 20頁

№37号（梧竹生誕150年記念展特集） B5版 アート紙 14頁

№38号（鍋島更紗、段通展特集） B5版 アート紙 6頁

№39号（古代のくらしのなかの器展特集） B5版 アート紙 8頁

・年報

52年度は第7号を発行し、昭和51年度の博物館の管理運営、事業、資料の概況、茶室の利用概況について報告した。

印刷部数 1,000部

形態 B5版 アート紙 79頁

・「鍋島更紗・段通展」図録

この図録は昭和52年9月17日から10月16日まで開催した「鍋島更紗・段通展」に伴なって刊行したもので、カラー写真26枚、モノクロ写真約300枚を含め155頁。

印刷部数 1,000部

形態 B5版 アート紙

内容 カラー 9頁

鍋島更紗 9頁

日本の更紗 13頁

世界の更紗 39頁

鍋島段通 21頁

世界の段通 9頁

更紗・段通論 22頁

資料 29頁

略年表 4頁

出品目録 8頁

・「古代のくらしのなかの器展」図録

この図録は昭和53年2月26日から3月26日まで開催した「古代のくらしのなかの器展」に伴なって刊行したもので、モノクロ写真約1,000枚を含め257頁。熊本県下益城郡城南町宮地出土の重要な文化

財付 舟形土器をはじめ弥生・古墳時代の土器を、各県ごとに時代別、遺跡別に分類して掲載している。

印刷部数 1,500部

形 態 B5版 アート紙

内 容 九州の弥生式土器 2頁

九州の土師器・須恵器研究 2頁

朝鮮半島と北部九州の土器・陶器 2頁

佐賀県 74頁

長崎県 10頁

福岡県 75頁

熊本県 30頁

大分県 22頁

宮崎県 18頁

鹿児島県 16頁

時代解説 1頁

土器解説 1頁

編年表 2頁

(2) 博物館研究講座

本年度は「梧竹生誕150年記念展」、「鍋島更紗・段通展」、「古代のくらしのなかの器展」の開催中に記念講演会を実施した。

期日	演題	講師	参加者数
8月20日	梧竹の生涯	中林梧竹研究家 佐々木盛行氏	80人
8月27日	梧竹の書について	前佐賀大学教授 土肥 稔利氏	135人
9月3日	年代に見る梧竹の書について	中林梧竹研究家 佐々木盛行氏	45人
9月17日	日本の更紗、世界の更紗	多摩美術大学客員教授 山辺 知行氏	45人
10月1日	鍋島更紗、段通	日本工芸会理事 鈴田 照次氏	80人
3月4日	古代の生活と器	九州産業大学教授 森 貞次郎氏	145人
3月10日	古代の生活	奈良国立文化財研究所所長 坪井清足氏	140人
計			670人

(3) 移動博物館

本年度は有田町で11月3日より6日まで4日間公民館で実施した。

展示品は自然史、考古、歴史資料約200点を展示した。なお有田町の第1回総合文化祭行事と併設

されたので大変好評であった。

会期	会場名	期間	観覧者数
昭52・11・3～11・6	有田町公民館	4日	2,169人



5. 発掘調査

百田洞穴遺跡第1次発掘調査 一東松浦郡肥前町瓜ガ坂所在一

当館では昭和45年10月の開館以来、佐賀県における旧石器時代から縄文時代への編年の確立を求めて、伊万里市・白蛇山岩陰遺跡や西有田町・坂の下遺跡等の発掘調査を実施してきた。

昭和52年3月には、大陸や朝鮮半島に最も近接する東松浦半島に点在する洞穴の分布調査を実施し、肥前町や相知町を中心に12ヶ所の洞穴を確認することができた。今後は東松浦半島の発掘調査により、編年の確立と朝鮮半島との交流の解明も可能な地域であることが解った。

今年度は第1回目の発掘調査として、肥前町瓜ガ坂に位置する「百田洞穴」を、当館と肥前町教育委員会の共催のもと、地元瓜ガ坂地区の協力を得て、昭和52年12月1日から12月10日までの10日間発掘調査を実施した。

遺跡は、第3紀層の砂岩が露頭する上場台地の一角をなす地域で、眼下には波静かな伊万里湾が広がり、南には黒曜石の原産地である腰岳が位置し、近接して玄蕃岩洞穴や旧石器時代末期のナイフ形石器を多く出土した生石遺跡等が点在する。

洞穴は砂岩が風化して形成されており、南に向って開口している。洞穴の規模は横幅約33.5m・奥行約5.5m・高さ約4.0mを有し、標高約42mの地点に位置する。この洞穴から過去において、黒曜石や安山岩製の石器が発見され、洞穴の前庭部からは剥片が多く表面採集される。

発掘調査は洞穴内に南北の方向に3本のトレンチ（試掘溝）を設定し、西側に2m×4mのAトレンチ、東側に2m×2mのDトレンチ、2m×2mのEトレンチとした。

その結果、Aトレンチは遺物の包含層が浅く、生活の場は洞穴の東側であることが、D・Eトレンチの遺物包含層の状況から判明し、発掘調査の主体を洞穴の東側とした。

D・Eトレンチからは各層位ごとに縄文時代の土器・石器が多量に出土し、上層から下層にかけて後期御領系土器や後期無文土器、胎土に多量の滑石粉末を混入した前期曾畠系土器等が確認された。また、下層部より押型文土器と推定できる土器片も出土しており、今後洞穴の前庭部の発掘調査により資料の追加が期待される。

一方、これらの各種土器に伴なって石匙・尖頭器・石錐・刃器・石鎌等の石器が出土している。

現在、出土遺物の整理中であり、昭和53年度中に第1次発掘調査の概報の出版と、第2次発掘調査を実施すべく準備を進めている。

資料の概況

1. 昭和51年度末資料の概況

資料は大別して自然史資料、考古資料、歴史資料、美術工芸資料および民俗資料に分類しているが、その概況はつきのとおりである。

資料 約41,000点

自然史資料 約4,800点

佐賀県地形模型（25,000分の1）

佐賀市街地図（2,500分の1）

唐津市街地図（2,500分の1）

恐龍（タイラノザウルス）の生態模型（2分の1）（国立科学博物館から寄贈）

原生代（コレニヤ）化石

古生代（パラフズリナ・シダ）化石

中生代（魚類・アンモナイト）化石

新生代（メタセコイヤ・シキシマバス・二枚貝・サメ・ヨコヤマオウムガイ）の各種化石

研磨した佐賀県の岩石標本（球状閃緑岩、石英、安山岩他5点）

天然記念物エヒメアヤメの生態模型

佐賀県のチョウ類標本

佐賀県のトンボ類標本

佐賀県の甲虫類標本

佐賀県の野鳥標本

オオフウチョウ・コフウチョウ剥製標本（国立科学博物館から寄贈）

天然記念物カササギの生態資料

・生態模式パネル

・生態写真

有明海・玄海の魚貝類標本

カブトガニの発生順序

有明海の干潟と生物の模型

・干潟の状態

・ムツゴロウ・ワラスボ・シャミセンガイ・アゲマキ・シオマネギ等

蛇紋岩の岩石標本

石英塊の岩石標本

角せんはんれい岩の岩石標本

讃岐岩の岩石標本

玄武岩質集塊岩の岩石標本

火山弾（竹崎海底火山、約1トン）

紫水晶大型標本（約120キロ）（ブラジル国佐賀県人会から寄贈）

考古資料 約18,100点

・先土器時代

尖頭器（杵島郡鬼の鼻山、多久市三年山・同茶園原遺跡出土）

細石器（馬渡島切立遺跡出土、伊万里市白蛇山岩陰遺跡出土）

・縄文時代

石器・土器（西有田町盗人岩洞穴出土、白蛇山岩陰遺跡出土）

西有田町坂の下遺跡出土の石器・土器・木器・編み籠の一部・木の実から発芽したアラガシの幼木

・弥生時代

三日月町土生遺跡出土の石器・土器・木器・炭化米・木の実

呼子町大友遺跡出土のカメ棺・装身具・伸展葬と屈葬人骨

唐津市桜馬場出土の鏡・銅鉗・巴型銅器ほか（重要文化財）

北方町東宮裾・樺島山遺跡出土遺物の一括遺物

県内出土の各種銅鏡・銅劍・銅戈等

上峰村切通・唐津市葉山尻・神埼町八子遺跡等出土のカメ棺

・古墳時代

佐賀市熊本山出土の舟型石棺ならびに副葬品（県重要文化財）

県内出土の各種武器武具・農耕用具

基山町伊勢山遺跡出土の祭祀遺物

北方町永池古墳の線刻文様（人物）

鳥栖市田代太田古墳（史跡）の模型および同古墳の壁画模写図・同復原図

関行丸古墳出土品（県重要文化財）

歴史資料 約1,200点

基肄城跡（特別史跡）出土瓦・国分寺跡出土瓦および同寺瓦窯跡出土瓦など

県内出土の藏骨器・在銘経筒

木造聖観音立像（重要文化財模造）

木造天部立像
木造如来坐像
木造円鑑禪師坐像（重要文化財）
楊柳観音図像（重要文化財）
阿弥陀八大菩薩図像
善財童子歴參図像
釈迦三尊比丘図像
八字文珠菩薩騎獅図像（県重要文化財）
水上懸仏（県重要文化財）
今山合戦関係資料
豊臣秀吉の朱印状ほか文禄慶長の役関係資料
肥前名護屋城図屏風、朝鮮国禮曹の通論文
島原の乱関係資料
藩政時代絵図および文教資料
佐賀藩精煉方関係資料
佐賀藩精煉方製造蒸氣車雛形（鉄道記念物）同蒸氣船雛形
石造物（観音像・地蔵像・五輪塔・板碑・六地蔵・三重塔・名護屋城旗竿石など）
パリー万国博覧会（慶応3年）参加関係資料
成長の役、佐賀の乱関係資料
郷土の先覚者の書・画等

美術工芸資料 約16,100点（陶片を含む）

・書跡

副島蒼海・中林梧竹・西川春洞・大坪格軒の書

・絵画

洛中洛外図屏風

伊藤若冲（鶏図）他近世絵画資料

伝高橋由一（鮓）

百武兼行（イタリア風景・マンドリンをもつ少女・老婦人像）

久米桂一郎（フランス風景・りんご拾い・加茂川の新緑・ゼーヴル橋畔）

小代為重（久米桂一郎肖像・少女・チームズ河畔）

岡田三郎助（花野・バラ）

藤島 武二（裸婦・婦人像）

青木 繁（ランプ・男の像・神話・夕焼の海・佐賀風景・浴女・かるた5・木下大尉の肖像・

絵葉書・書・織月帰舟)

高木背水・北島浅一・御厨純一・武藤辰平・山口亮一ほか本県関係の代表的画家の作品

・刀剣その他

肥前忠吉初代・2代・3代・6代・7代・9代(刀・短刀・槍先)およびその他の肥前刀匠の作品・小道具・鎧・火なわ式銃・大筒

・陶磁器

古唐津系(茶碗・皿・鉢・大鉢・水指・徳利・花瓶・大壺)

初期伊万里系(茶碗・皿・徳利)

古伊万里系(VOC商標入り皿・鉢・水指・徳利・角瓶・婦人像)

柿右衛門系(深鉢・徳利・壺・陶板)

鍋島藩窯系(皿・大皿・青磁花器)

県内の古窯跡出土の陶磁器片(各種)

民俗資料 約800点

有明海の漁撈具(重要民俗資料)・玄海の捕鯨用具一式

田代製糞関係資料

製蠅関係資料

採炭用具一式

石造物

三谷和紙製作用具一式

2. 昭和52年度購入資料

① 歴史資料

品 名	作 者	数 量	規 格
肥前古湯温泉石版画		1	紙本摺本 捲り 39.0×54.0
復元佐賀藩鋳造鉄製24ポンド砲	佐賀県機械金属 工業連合会 (東亜工機)	1	鋳鉄製 全長 318.2cm 口径 148.0mm
鍋島家家紋付酒杓 (書画類)		1	木製黒漆塗 高 13.5 口径 12.0 柄長 20.0
婆心帖	草場 佩川著 草野龟之助写	1	紙本淡彩 和綴 26.5×19.0
山水図画贊	谷文 晴画 古賀 精里贊	1	紙本墨画 掛幅 50.0×50.0
沢蟹図画贊	草場 船山	1	紙本墨画 掛幅 103.0×32.0
懸崖菊図画贊	草場 船山	1	紙本墨画 掛幅 130.0×30.0
乃木大将図画贊	聽南天 松画 棒贊	1	紙本墨画 掛幅 114.0×33.5

風流云々	八行書	龜井 南冥	1	紙本墨書	捲り	27.0×40.0
非是云々	八行書	古賀 精里	1	紙本墨書	捲り	29.0×31.0
雲影云々	七絶三行書	谷口 藍田	1	紙本墨書	掛幅	125.0×48.0
心安云々	二行書	大木 喬任	1	紙本墨書	掛幅	114.0×41.0
瀧川云々	三行書	古賀 侗莽	1	紙本墨書	掛幅	130.0×29.0
自是云々	二行書	古賀 精里	1	紙本墨書	掛幅	114.0×27.0
雪風云々	一行書	古賀 精里	1	紙本墨書	掛幅	132.0×30.0
怪雲云々	二行書	古賀 穀堂	1	紙本墨書	掛幅	126.5×27.0
紅顏云々	七絶四行書	大木 喬任	1	紙本墨書	掛幅	145.0×56.0
七絶詩屏風		草場 佩川	1	紙本墨書	4曲1双 各扇	130.0×50.0
松図画贊屏風		草場 佩川	1	紙本淡彩	6曲1隻 第1、第6扇 ×33.5 第2～第5扇 102.5×37.0	
大潮書簡（8月18日付）		月枝 元皓	1	紙本墨書	巻子	14.1×553.0
大潮書簡（9月10日付）		月枝 元皓	1	紙本墨書	巻子	14.1×78.0
最佳室記		草場 佩川	1	紙本墨書	扁額	25.0×104.5

② 美術資料

品 名	筆 者	数 量	規 格
切り通しの教会	納富 進	1	油彩、画布 116.7×90.9
雪 景	納富 進	1	油彩、画布 90.9×72.7
浜	池田幸太郎	1	紙本着色 116.8×91.2
唐獅子図屏風	長沢 芦雪	1	紙本墨画 160.2×354.0
樓閣山水図	筆者 不詳	1	紙本墨画 各 139.4×49.8
武藏大和村風景	小栗 潮	1	紙本着彩 231.0×171.0
吳鎮詞三行書	土肥 春嶽	1	紙本墨書 69.0×33.8
達磨図	馬渡 高雲	1	紙本墨画 50.0×57.5
菜根図画譜	熊代 熊斐	1	紙本墨画 51.3×81.0
懸崖図	熊代 熊斐	1	紙本墨画 102.7×44.0
即非図画譜	狩野 洞雲	1	絹本着色 91.0×35.0
紀氏神影画譜	古川 松根 富小路政直贊	1	絹本着色 115.0×39.4

③ 工芸資料

品 名	規 格	数 量	備 考
古唐津叩き手鉛釉三耳付葉茶壺	口径 10.5 高さ 29.5 底径 14.0	1	江戸時代前期 瓢屋の谷窯
染付岩牡丹唐人図壺	口径 11.2 高さ 19.7 高台径 11.5	1	江戸時代前期～中期 柿右衛門系窯

柿右衛門染錦鶴図龍唐草文角皿 色鍋島墨彈き地文唐草花向付 (5客) 幽遠 (染色)	口径 17.0 高さ 2.5 高台径 12.5 口径 11.0 × 13.0 高さ 3.8 高台径 5.7 × 7.5 163.0 × 88.0	1 1組 1	江戸時代中期 江戸時代中期 鍋島藩窯 城秀男作
--	---	--------------	-------------------------------

④ 民俗資料

品 名	数 量	規 格	
大型竿秤 (200斤用)	1	長 156.5 cm	
大型竿秤 (175斤用)	1	長 142.0 cm	
大型竿秤 (100斤用)	1	長 109.5 cm	
竿 秤 (800匁用)	1	長 61.5 cm	
竿 秤 (400匁用)	1	長 56.0 cm	(のせ皿付)
竿 秤 (300匁用)	1	長 40.5 cm	(棒ケース付)
竿 秤 (200匁用)	1	長 22.4 cm	(木箱入)
理化学天秤	1	箱高 28.5 cm 横 28.5 cm 縦 17.5 cm	(箱入)

⑤ 資料図書

書 名	著 者 名	数 量	発 行 所
焼残反故	写者不明 筆書 和綴	5	
焼残反故 (3~5合本)	"	1	
大学考 中庸考	龜井 昭陽	2	松根堂
山陽詩注	燕石陳人註	5	耕読荘
山陽詩鈔	頬巣 子成	2	書林五玉堂
山陽遺稿	"	8	
山陽先生題跋、書後	頬山陽	4	春和堂
廣瀬淡窓	写者不明 筆者 和綴		
佐賀先哲叢話	中島 吉郎	1	佐賀郷友社
維新実歴史傳 前後	西河稱編述	3	牧野善兵衛
郷土研究 (4~9号)	佐賀県郷土研究会	6	佐賀県立図書館
日本風俗史綱	江馬 務	1	内外出版株式会社
洋畫メナエー ^{技法} 全科の研究	黒田重太郎、鍋井 克之	1	文啓社書房
民家—九州のかたち—	太田静六編	1	西日本新聞社
名物更紗類聚	鈴木 一	1	光村推古書院
和更紗紋様図鑑	吉木嘉門編	1	グラフィック社
印度更紗	北村 哲郎	1	京都書院

御物聚成		2巻	朝日新聞社
四季草花写生図	川浪 養治	7	美の美
図書総目録		8	岩波書店



購入資料



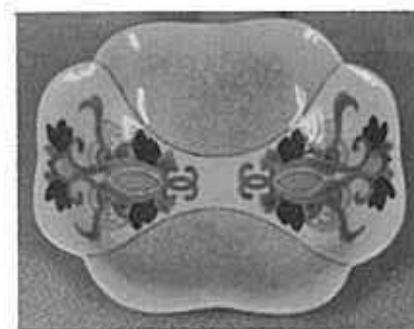
唐獅子図 長沢芦雪筆



菜根図 熊代熊斐筆



柿右衛門染錦菊図龍唐草文角皿



色絹島墨弾き地文唐草花向付



古唐津叩き胎釉三耳付茶壺



染付岩牡丹唐人図壺



大潮書簡



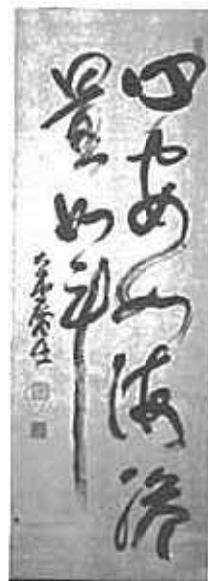
草場佩川筆 松図画贊屏風



谷口藍田書 古賀精里書



草場船山画贊



大木喬任書



復元佐賀藩鉄製24ポンド砲

3. 昭和52年度寄贈資料

① 歴史資料

品 名	数 量	規 格	寄 贈 者
竜造寺隆信肖像画	1	掛軸装 紙本着色 59.5×35.0 長さ 75.0 反り 2.6 黒蠟色鞘付 銘「肥前国忠吉」 「成松氏之壽作之」 長さ 38.9 反り 1.0 黒蠟色鞘 小柄付 銘「肥前國陸奥守忠吉」	横浜市港北区富士塚 2丁目 18-41 成松敏夫
8代忠吉刀	1		同 上
3代忠吉脇差	1		同 上

② 美術資料

品 名	筆 者	数 量	規 格	寄 贈 者
野方風景	納富 進	1	100.0×80.3	鹿島市 納富百合子
村落（スペイン）	"	1	"	"
長崎風景	"	1	"	"
私のアトリエ	"	1	40.9×31.8	"
竜王峠（下絵）	"	1	24.0×32.0	"
咏子の座像（下絵）	池田幸太郎	1	155.0×85.0	名古屋市 加川星子
自画像	"	1	53.0×45.5	"
スケッチブック（76冊）	"	1 件		東京都 池田初郎
素描（176枚）	"	1 件		"
岡田三郎助写真		2		東京都 田村一男
和田三造自筆書簡 (岡田三郎助宛)		1		"
岡田三郎助個展目録		1		"
司空曙詩四行書	土肥 春嶽	1	紙本墨書 139.0×70.0	佐賀市 土肥禎利

③ 工芸資料

品 名	規 格	数 量	寄 贈 者
長崎ガラス水注	高さ 15.0	1	佐賀市多布施4丁目1-8 大園 弘
和更紗小菱文	縦 66.0 横 115.5 木綿布染	1	佐賀市川原町5-3 富岡フミ
和更紗丸に八弁文	縦 31.5 横 177.0 木綿布染	1	佐賀市川原町5-3 富岡フミ
和更紗菱文 2枚1組	縦 32.0 横 174.0 木綿布染	1	佐賀市川原町5-3 富岡フミ
表装裂地見本帖	縦 16.8 横 24.5 絹織物	1冊	佐賀市川原町5-3 富岡フミ
表装裂地の端切 約 130 点	絹織物	1件	佐賀市川原町5-3 富岡フミ

染色作品「現代想」

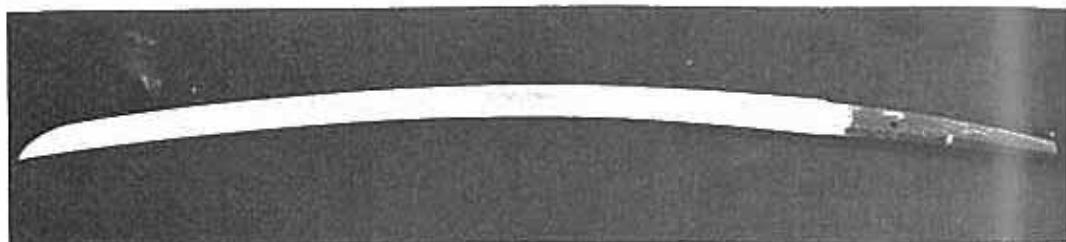
175.0×175.0

1 佐賀市西与賀町原外845 城 劣男

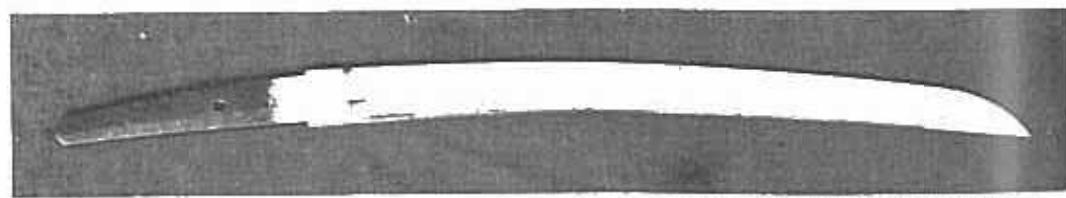
④ 民俗資料

品名	数量	規格	寄贈者
弓弦提灯	1 張	高さ 49 cm	佐賀市多布施4丁目1-8 大園 重
プラ提灯	1 張	高さ 39 cm	"
扇風機	1	高さ 40.5 cm	"
電気ストーブ	1	高さ 46.4 cm	"
銀貨(50銭)	1	径 2.6 cm 明治40年発行	佐賀市金立町金立 吉川善也
鉛鏡	1 式	鉛鏡長 325 cm	佐賀市嘉瀬新町 田中繁雄
鉛錆用弾丸鋸型	1	2番弾丸用	佐賀市嘉瀬新町 福田竹次
鉛錆用弾丸鋸型	1	8番弾丸用	佐賀市嘉瀬新町 田中春一

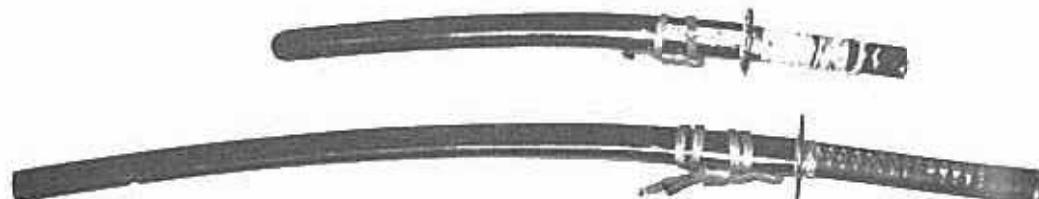
寄贈資料



刀(銘「肥前国忠吉」)



脇差(銘「肥前国陸奥守忠吉」)



同上

4. 昭和52年度寄託資料

① 美術資料

品 名	筆 者	数 量	規 格	寸 法
達磨図	筆者不詳	1	紙本着色	43.8×54.8
漢宮春曉図	伝仇英筆	2	"	各 245.0×335.2
山桜図	筆者不詳	2	紙本銀地着色	各 161.5×356.0
琴棋図		1	紙本墨画淡彩	148.0×336.0
野馬図		2	紙本金地着彩	各 168.3×82.3
朝鮮軍陣図	住吉広記	3	"	各 168.7×368.5
源氏図	板谷弘延	1	"	99.9×381.0
竹図	"	1	"	109.9×391.4
吉野観桜図	筆者不詳	2	"	各 108.0×265.0
四季孔雀図	狩野高信	2	"	各 151.5×345.6

② 工芸資料

品 名	規 格
佐賀錦習作 6枚	和紙に木綿糸 a 縦18.5 横23.5 b 縦18.5 横24.5 c 縦19.0 横26.0 d 縦20.0 横23.0 e 縦19.5 横24.0 f 縦19.0 横25.0
鍋島更紗掛幅	184.5×51.5
鍋島更紗見本帖	671.5×36.0
鍋島更紗端切集 20枚	39.7×31.0
鍋島更紗袱紗	35.0×34.0
鍋島更紗秘伝書	193.0×32.2
鍋島更紗染料 6袋	
鍋島段通蟹牡丹文	192.0×93.0
鍋島段通唐草花文	183.0×90.5
鍋島段通蟹唐草文	280.0×94.0
鍋島段通唐草花文	361.0×94.0

寄託資料



達磨図



蟹唐草文 江戸末期



唐草花文 江戸末期



蟹牡丹文 明治初期

5. 昭和52年度購入及び寄贈図書

① 贈入図書

書名	著者名	数量	発行所
重要文化財 別1、2	文化庁監修	2	毎日新聞社
肥前石炭礦業史料集	秀村選三ほか	1	文献出版
ENGLISH-DUTCH DUTCH-ENGLISH		1	CASSELLS
唐津	水町和三郎、鍋島直紹	1	白鳳社
新コンサイン和英辞典	中島文雄編	1	三省堂
小山富士夫著作集 上巻、中巻	小山富士夫	2	朝日新聞社
重要文化財 22、23、30巻	文化庁監修	3	毎日新聞社
陶器講座 5巻	桂又三郎ほか	1	雄小閣
茶杓三百選 第2巻	高原杓庵著	1	河原書店
九州、沖縄の生きものたち 第3集	福田利光	1	西日本新聞社
佐羅紗便覧	富山弘基	1	はくおつ社
全国民族博物館総覧	観光資源保護財団編	1	柏書房
九州文化論集1~5	松本雅明ほか	5	平凡社
大日本名家全書全1巻(復刻版)	高野和人	1	青潮社
日本古代人名辞典 全7巻	竹内理三ほか	7	吉川弘文館
帰化植物図鑑	長田武生	1	保育社
庭木	岡本省吾	1	"
筑豊石炭礦業史年表	同編纂委員会編	1	西日本文化協会
梵字事典	中村瑞隆ほか	1	雄山閣
日本近代美術発達史	浦崎錫陽著	1	東京美術
近代日本洋画の展開	匠秀夫	1	昭森社
東京・美術学校の歴史	磯崎康彦	1	日本文教出版
陶器大辞典	加藤唐九郎編	1	淡交社
豊田勝秋	中牟田佳彰	1	西日本新聞社
古唐津上・下	水町和三郎	2	出光美術館
茶道史年表	桑田忠親	1	東京堂出版
絵画論集	橋崎宗茂	1	講談社
桃山時代の工芸			淡交社

② 寄贈図書

書名	著者名	数量	発行所	寄贈者
伊場遺跡発掘調査報告書		1セット	伊場遺跡資料館	伊場遺跡資料館
厚東氏の研究及び史料	川副 博	1	風間書房	佐賀市 川副博
古今日本書籍名家辞典全14巻		1セット	松雪堂	佐賀市富吉英之
社会と文明の発達1		1	講談社	講談社
重要文化財 土井家住宅修理工事報告書	大町町教育委員会	2	大町町教育委員会	大町町教育委員会
日本の歴史 4	和歌森太郎	1	旺文社	旺文社
立岩遺跡 群馬県武井における二つの 器文化	飯塚市教育委員会	1	飯塚市教育委員会	飯塚市教育委員会
水稻慣行収穫法	佐賀大学農学部	1	明治大学文学部 研究報告	明治大学文学部
佐賀県史料集成 古文篇 第18巻	佐賀大学農学部	1	佐賀大学農学部	佐賀大学農学部
佐賀市史 第1巻、第2巻		2	佐賀県立図書館	佐賀県立図書館長
齊藤素嚴	齊藤 秀	1	佐賀市	佐賀市長
近代美術	森口多里	1	齊藤 秀	東京都小平市
日本民謡大観	日本放送協会編	1	東京堂出版	齊藤 秀
放送五十年史	"	1	日本放送協会	佐賀市 大園弘
放送五十年史 資料篇	"	1	"	"
名物更紗類聚 解説編	鈴木 一	1	光村推古書院	京都市中京区
名物更紗類聚 資料編	鈴木 一	1	"	鈴木 一
沖縄織物の研究 別冊	田中俊雄	2	紫紅社	紫紅社
裂地図録	田中玲子	1	至文堂	至文堂
日本の美術		1	紫紅社	紫紅社
インドネシア染織大系 (上巻)	相知町史編さん委員会	1	相知町	相知町
相知町史 下巻	服部雪斎	1	美乃美	有田町川浪養治
華鳥譜	清水治編	1	美術俱楽部出版部	美術俱楽部出版部
現代の日本美術	山内町史編さん委員会	2	山内町	山内町長
山内町史上 下巻	内山武夫	1	小学館	小学館第2出版
原色現代日本の美術 3	七山村史編さん委員会	1	七山村	部美術編集部
七山村史	近藤信彦 前園寛知雄	1	小学館	七山村史編さん 委員会
世界陶磁全集 3		1	光琳社	東京都足立区 屯井正造
別冊 日本の文様 2		1	紫紅社	光琳社出版(株)
インドネシア染織大系 下巻	鈴木健二	2	小学館	紫紅社
原色現代日本の美術 15		1	大阪府教育委員会	小学館第2出版
大阪府文化財調査報告書		1セット	平凡社	部美術編集部
茶碗 全5巻		1セット	中央公論社	大阪府教育委員会
日本の陶磁 全14巻		1	光琳社	西日本新聞社
別冊 日本の文様 3				"
				光琳社出版(株)

茶室「清恵庵」の管理と運営の概況

茶室「清恵庵」は昭和48年10月郷土出身の実業家故市村清氏のご遺志により、同夫人幸恵氏より本県に寄贈されたもので、今年で5年目を迎える。利用の傾向としては普及が広く一般に渗透し、県内、県外の茶道各流派のグループによる利用や各種団体による茶会など幅広く利用された。

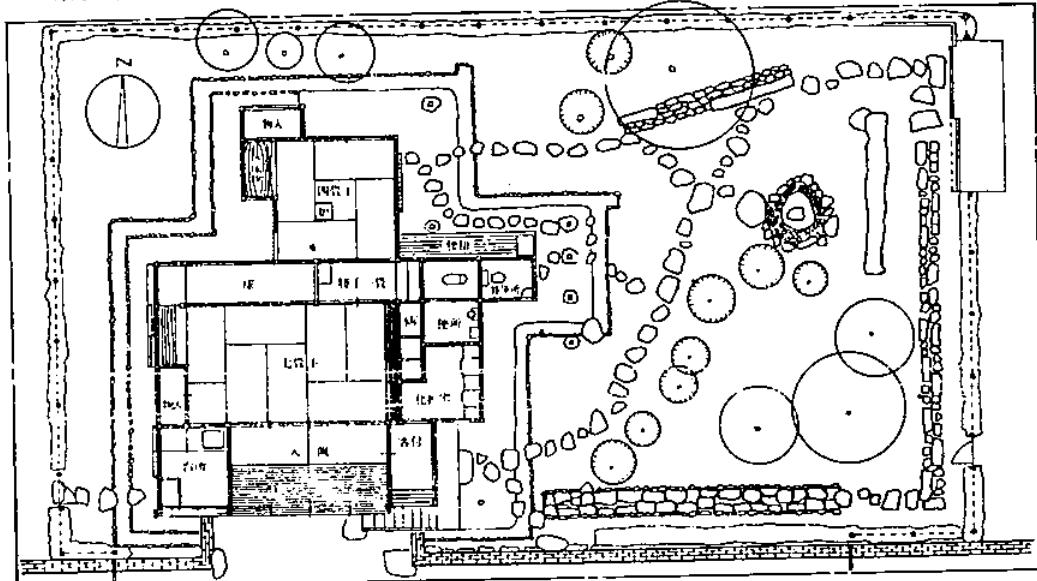
1. 茶室の規模および施設

設計者 堀口捨己 東京都太田区山王4-6-5

早川正夫 東京都港区南青山5-9-12 アイザワビル

構造 木造平家建寄棟造・規模 床面積 57.35 m²

茶室平面図



2. 茶室の規則、規程

・佐賀県立博物館の管理に関する規則（昭和45年佐賀県教育委員会規則第10号）抄

第15条 館長は、博物館の業務に支障のない範囲内において、大展示室・中展示室及び茶室等の施設を博物館事業に関係のある行事のために使用させることができる。

附 則（昭和48年10月11日規則第11号）

この規則は昭和48年10月11日から施行する。

・佐賀県行政財産使用料条例等の取扱いについて

地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の4 第3項及び佐賀県立博物館の管理に関する規則（昭和45年佐賀県教育委員会規則第10号）第15条の規則に基づき、佐賀県立博物館の大展示室・中

展示室及び茶室の使用を許可する場合の事務手続き及び使用料については、佐賀県行政財産使用料条例（昭和39年佐賀県条例第33号）及び佐賀県公有財産規則（昭和40年佐賀県規則第6号）を適用し、関係条項の取扱いは、下記のとおりとする。

記

1. 大展示室・中展示室及び茶室の一時使用許可の手続きについては、佐賀県公有財産規則第20条の規定によることとする。
2. 前項の許可による使用料の額は、佐賀県行政財産使用料条例の別表中「講堂、体育館及びこれに類するもの」に該当するものとしてその額を定めるがこの場合、昭和39年12月17日付管第642号の総務部長通知による定めにかかわらず、実情に即して下表によることとする。

名称構造等	面 積 (m ²)	期間 (時間)	使用料 (円)
大 展 示 室	523.5	4	1,500
中 展 示 室	136.0	4	500
茶 室	57.35	4	1,500

3. 前項の使用料の減免について佐賀県行政財産使用料条例第5条を適用する場合その取扱いについては前項の総務部長通知の運用によることとする。
4. 大展示室・中展示室及び茶室を使用させるさいの光热水費等については、前項の総務部長通知の取扱いによることとし、なお光热水費等の徴収額は、下表のとおりとする。

区 分	大展示室	中展示室	茶 室	備 考
冷暖房しない場合	310	70	30	1時間当たり
冷 房 の 場 合	840	140	—	〃
暖 房 の 場 合	590	130	—	〃

・佐賀県立博物館茶室「清恵庵」使用規程（昭和48年10月20日 佐賀県立博物館規定第26号）

(趣 旨)

第1条 佐賀県立博物館茶室清恵庵（以下「茶室」という）の使用については、この規程の定めるところによる。

(使 用 申 込)

第2条 茶室を使用しようとする者は、茶室使用申込書（別記様式第1号）により使用期日の10日前までに佐賀県立博物館長（以下「館長」という）に申し込むものとする。

(使 用 の 許 可)

第3条 館長は、前条の申し込みによる茶室の使用を認める場合は、茶室使用許可証（別紙様式第2号）を交付するものとする。

(許可の取消等)

第4条 館長は、茶室の使用許可を受けた者が次の各号の1に該当する場合は、使用の許可を取り消し、又は使用を中止させることができる。

1. 茶室使用申込書に虚偽の記載があったとき。
 2. 許可の条件に違反したとき。
 3. 関係職員の指示に従わなかったとき。
2. 前項の許可取消等により生じた損害についての補償は行なわない。

附 則

この規程は、昭和48年10月20日から施行し昭和48年10月11日から適用する。

3. 茶室の利用状況

茶室「清恵庵」の利用については、5年目に入り、県内はもとより県外にも広く周知され、好評を得ている。本年は各流の茶道グループ、婦人学級、青年団、学校などの団体あるいは茶道同好会など、利用者の幅がさらに広まり、社会教育・学校教育の一環として広く利用された。

月別にみた利用状況は下表のとおりである。

年 月	利用団体数	利用者数(名)	見学者数(名)
52. 4	3	94	41
5	2	40	17
6	2	42	14
7	0	0	7
8	0	0	19
9	1	10	15
10	5	91	13
11	3	40	100
12	0	0	29
53. 1	1	12	13
2	2	58	18
3	2	34	27
合 計	21	421	313

4. 茶道具備品

(1) 昭和51年度末の概況は次のとおりである。 約163点

掛物（淡淡斎宗室、希斎宗有、大徳寺桃林の書、村瀬玄妙の書）

花入（胡銅、朝鮮唐津「中里重利作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、大

川内焼青磁「小笠原蔭作」、備前焼、竹花衣「生野祥雲斎作」、竹一重切花入「宗陵作」）

香合・香炉（12代今泉今右衛門作、井上万二作、宗祥作、黒牟田焼「丸田正美作」）
 茶碗（唐津奥高麗「中里無庵作」、絵唐津「13代中里太郎右衛門作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、大川内焼青磁「小笠原謹作」、青磁「中島宏作」、唐津井戸「中里重利作」）
 水指（信楽焼「高橋栄斎作」、朝鮮唐津「中里重利作」、小山路焼「江口勝美作」、12代今泉今右衛門作）
 薄茶器（沈金棗「安村稔作」）
 濁茶器（13代酒井柿右衛門作）
 風炉（利休面取風炉、切合唐銅風炉、合金面取風炉）
 釜（切合釜、竹紋縁口釜「松寿作」、筋入炉釜、菊桐地紋炉釜、雲竜釜「高橋敬典作」、尻張釜「高橋敬典作」）
 棚（竹台子、桐丸卓、桑小卓、真塗長板）
 火入（染付「12代今泉今右衛門作」）
 菓子鉢（唐津焼、「13代太郎右衛門作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口正美作」）
 建水（不審庵伝来写「11代中川淨益作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、唐銅）
 皆具（唐銅「祥栄作」）
 曲湯桶、置炉、瓶掛等、蒟蒻、塗四方盆

(2) 昭和52年度購入備品 6点

品 名	数量	作 者	規 格
唐津皮鯨茶碗	1	中 里 重 利	口径 16.1 高さ 6 cm
菊花書詰萼絵卵香合	1	助 市	縦 3.9 横 5.7 (内径 5-1) 高さ 4.0
秋草蒔絵風炉先屏風	1	古 美 術	縦 7.3 横 93.8
有馬千鳥籠花入		昭 竹 斎	口径 13.2 高さ 16 底径 22.5
有馬ひさご籠花入		〃	口径 7.3 高さ 21.7 胴径 15.0 底径 7.5
白地茶碗		初代 忠右衛門	口径 13.6 高さ 6.2
計	6		

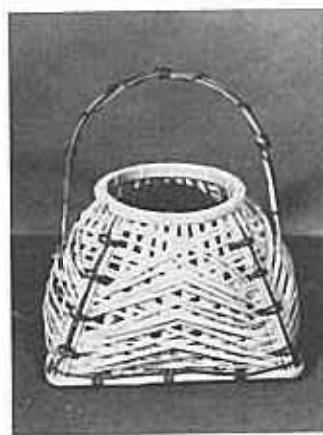
(3) 昭和52年度寄贈備品

品 名	数量	作 者	規 格	寄 贈 者
書幅（二行書）	1	壳 茶 翁	紙本墨書き 縦 13.5 横 30.5	沢 田 章
青磁鶴首花入	1	小 笠 原 謹	口径 2.9 高さ 25.7 胴径 9.4	小 笠 原 謹
白池茶碗	1	奥川 忠右衛門	口径 12 高さ 7.2 胴径 11.3	奥 川 章 次
計	3			

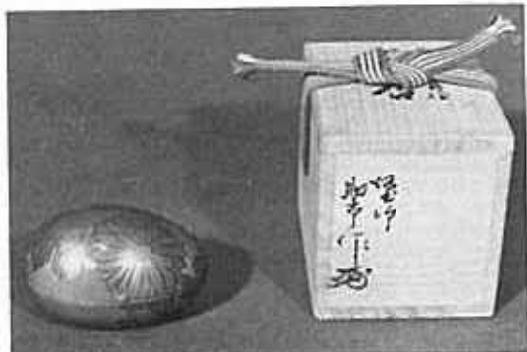
購入備品



白地茶碗 初代忠右衛門作



有馬千鳥籠花入 昭竹斎作



菊花書詰蒔絵卯香合 助市作



唐津皮鯨茶碗 中里重利作

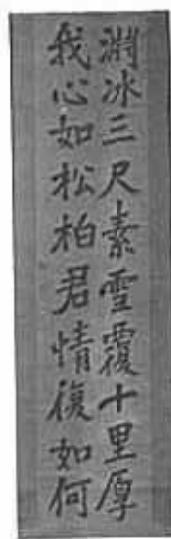
寄贈備品



白地茶碗 奥川忠右衛門作



青磁鶴首花入
小笠原 岩作



書幅(二行作)
壳茶 筆

佐賀県立博物館の展示事業計画（昭和53年度）

常 設 展			
佐賀県の歴史と文化展	5月3日～10月1日 54年 12月3日～3月31日	大人 50(30) 大・高生 30(20) 中・小生 20(10)	佐賀県の地質や自然および先史時代から現代にいたる歴史と文化についての、理解を深めるために自然史、考古、歴史、美術工芸、民俗の各部門について、系統的に資料を展覧する。

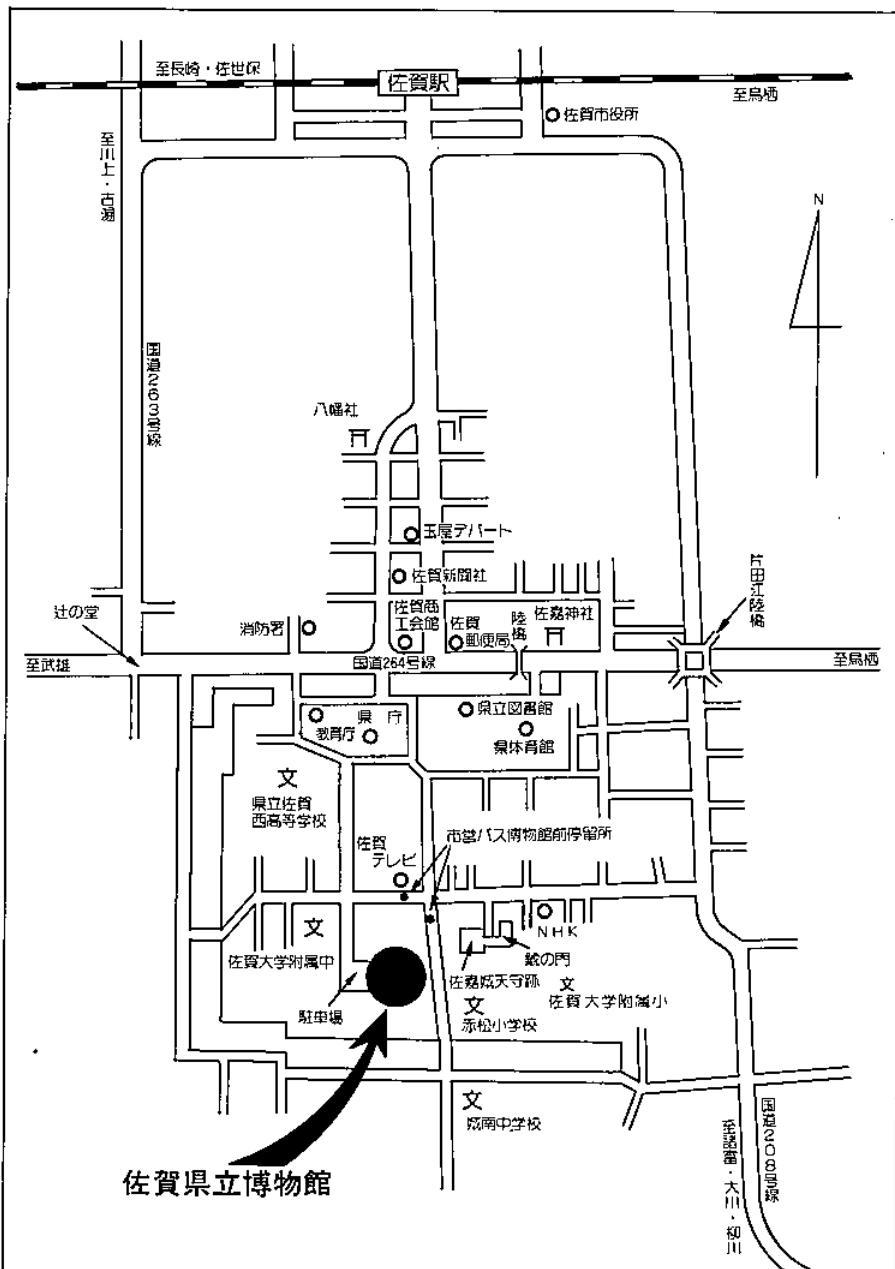
(月曜・祝日の翌日休館) 団体は20名以上、()内は団体料金

企 画 展			
展覧会名	会期	観覧料 ()内は団体料金	備考
日 展	4月1日～4月23日 会期中無休	大人 600(450) 大・高生 400(300) 中学生 300(200) 小学生 200(100)	日展は、わが国を代表する美術展で、その歴史は、古く明治40年文部省主催の文展として始まり、以後、帝展、新文展と呼称を改め、戦後、さらに同44年機構を改めて再発足し、今回が9回展である。 第一科（日本画）、第二科（洋画）、第三科（彫塑）、第四科（工芸美術）、第五科（書）からなり各界一流の美術家を擁し、現代日本の真髓を見せる総合美術展である。
レオナルド・ダ・ビンチ展	5月3日～5月24日 会期中無休	大人 150(100) 大・高生 100(50) 中・小生 50(20)	ダ・ビンチは(1452～1519)ルネッサンスが生んだ万能の天才である。一般に「モナ・リザ」等の絵画をとおして芸術家として知られているが、偉大な科学者であり発明家であった。科学者としてのダ・ビンチを顕彰する意味で残っているダ・ビンチのスケッチをもとにして製作された機械装置類の模型が、国立科学博物館に寄贈されたのを機会にこれらを一般に公開した。ダ・ビンチの科学に対する独創的な考察を紹介し、約500年前の驚異的な発想が今日、各分野にわたって応用され、適用されていることを認識したい。またこの展示をとおして創造的な興味と、疑問をもたせ、青少年の科学への探究心を啓発しあわせて一般県民に科学者としてのダ・ビンチを紹介したい。
佐賀美術協会展	6月15日～6月25日 会期中無休	無料	佐賀美術協会は60余年の歴史を持ち、県美術展と並んで、有力な登龍門ともなっている。本展は今年第61回を迎える。日本画、洋画、彫刻、工芸の4部門で約二百数十点が展覧される。
七夕書道展	8月1日～8月6日 会期中無休	無料	この書道展は、小・中・高等学校の児童、生徒を中心にして一般人も含めて作品を公募して展示するものである。 本展をとおして書写・書道教育の成果をあげ、本県の書道文化に貢献し、振興発展に寄与する。
県書作家協会展	8月8日～8月13日 会期中無休	無料	近代書道の先駆者、中林悟竹、副島透海という偉大なる書家を先輩にもつ本県の書道界が一堂に会して、本県書道界の飛躍的発展を期して開催するものである。
九州現代工芸佐賀展	8月19日～8月27日 会期中無休	無料	現代九州の新しい工芸の方向づけのために、制作活動を続ける九州の工芸作家の昭和53年度の作品を一堂に公開展示し、本県の工芸活動の発展を図りあわせて、現代工芸への県民の理解を深め、本県の造形文化の向上に資するものである。
理科作品展	9月14日～9月25日 19日休み	無料	佐賀市内および佐賀県内の小・中・高等学校の児童・生徒のすぐれた動物(昆虫を含む)、植物、岩石鉱物、理科創作品を展示し、科学に関する創意的研究の育成と向上をはかるとともに、広く一般の観覧に供し、科学教育に対する理解を深める。
古唐津展 —肥前陶器の歴史と美を探る—	10月7日～11月5日 会期中無休	大人 300(200) 大・高生 200(100) 中・小生 100(50)	唐津焼は肥前一帯で焼かれた陶器をさすもので、室町時代に渡来した李朝陶工によって胎動期をむかえ、日常雑器の製造から発展し桃山時代以降は茶人に愛用され茶陶として高い評価を受けるようになった。 この展覧は、伝世する名品をはじめ県内の古窯址及び日本各地の近世遺構から出土した陶片、関係資料を展覧し唐津焼の歴史と技法と工芸史上の価値を探るものである。
佐賀県美術展	11月18日～11月26日 会期中無休	大人 200(150) 大・高生 100(70) 中・小生 50(30)	日本画・洋画・彫塑・工芸・写真・書・宣伝美術の各部門で県内から公募した作品及び招待作品等を展示して佐賀県の現代美術を一般的に紹介し、地方文化の高揚に資する。

展覧会名	会期	観覧料 ()内は団体料金	備考
佐賀県美術展	11月18日～11月26日 会期中無休	大人 200(150) 大・高生 100(70) 中・小生 50(30)	日本画・洋画・彫塑・工芸・写真・書・宣伝美術の各部門で県内から公募した作品及び招待作品等を展示して佐賀県の現代美術を一般的に紹介し、地方文化の高揚に資する。
佐賀県高等学校書道展	11月30日～12月5日 会期中無休	無 料	県内高等学校生徒の書道作品を展示し、一般公開することによって、高等学校生徒の書道文化と技術の向上に資することを目的とする。
佐賀県学童美術展	12月8日～12月12日 会期中無休	無 料	本展は県下の小・中学校の美術振興のため創設された児童・生徒の登龍門の展览会であり、絵画、デザインとも力量あふれる展覧が期待される。
佐賀県高等学校美術展	12月15日～12月20日 会期中無休	無 料	県下の高等学校生徒が制作した水彩・油彩等の絵画を展覧するもので、本県高等学校美術教育の振興に資する。
九州グラフィックデザイン展	54年 1月21日～1月25日 会期中無休	無 料	この展覧会はデザイナーの登龍門となっており、九州・沖縄各県広域文化の向上発展と相互の交流をはかるための一環である。現在第一線で活躍するグラフィックデザイナーの作品50点と一般公募作品100点余を展示し、グラフィックデザイン界の発展に寄与する。
書初展	1月27日～1月31日 会期中無休	無 料	県内小・中・高等学校児童・生徒及び一般人の毛筆書写について関心をもたせ、たゆまぬ努力によって作品効果が表現出来ることを理解させるための展示であって、本県の書道教育の向上と佐賀県書道の振興発展に寄与する。
勤労者美術展	2月4日～2月8日 会期中無休	無 料	美術愛好の勤労者の作品を対象とした勤労者美術展は今年9回目を迎える。公募の形式をとっているが、絵画・書・写真・工芸の4部門からの全出品作品約250点を展覧する。
佐賀大学卒業制作展	2月20日～2月23日 会期中無休	無 料	佐賀大学美術科は特設美術科教員養成課程、中学校美術教員養成課程、小学校教員養成課程巡回選修の各コースから成り立ち、特別教科は九州・山口一円に亘り高校美術、工芸の教員として多くの人材を送り出している。毎年在学中の研究の集約として各人努力作を展覧する。
地下の遺宝展	3月3日～3月25日 会期中無休	大人 100(80) 大・高生 50(30) 中・高生 30(20)	近年、県内各地で遺跡の発掘調査が実施され、原始・古代の貴重な遺物や遺構が多数発見された。 中でも二塚山遺跡からの前漢鏡や彷彿鏡の発見、丸山遺跡からは稻作を中心とした農耕開始直後の土器の検出、土生・石木の遺跡からは各種の木製道具の発見と多大の成果を得ている。 これらの資料を展覧し郷土の原始・古代文化の理解と文化財保護意識の高揚に資する。

会期は都合により変更されることがあります。

案 内 図



交 通 機 関

佐賀駅から市営バス市内右廻り
左廻り博物館前下車

各バス（昭和、祐徳、市営）で県庁前下車

南へ300m 徒歩12分

佐賀県立博物館年報 第8号

発行年月日 昭和53年6月1日

編集発行 佐賀市城内1丁目15-23
佐賀県立博物館

印 刷 日之出印刷株式会社

佐賀県立博物館

〒840 佐賀市城内一丁目15-23 TEL(093)3947